# みのかも文化の森　年報

Vol.9

2008 年度

「みのかも文化の森」はミュージアムと教育センターの機能を合わせもつ新しいかたちの施設として2000 年 10 月にオープンしました。次の 4 つの理念のもと地域の教育文化活動の拠点になることをめざしています。

①自然との共存

森のたたずまいを「体感」できる場でありたいと考えています。人が自然から学ぶことの大事さ、得られるものの大きさをあらためて考えてみたいと思います。

②学校教育との連携

ここには地域の多様な資料が収集展示され人的資源もそなえられています。素材や条件を生かし特色ある様々な体験学習や深まりのある学習をおこなっていきます。

③市民参画

自由な発想と自発的な気持ちで市民のみなさんは活動に参画します。協働しておこなう新しい取り組みや企画は館の新しい力となって次へつながっていきます。

④地域づくり

いわゆる「博物館」や「教育・文化」といった限られた枠にとらわれず、生活の一部として利用され、様々な人々の交流の場となることをめざしています。

# 目　　次

ミュージアム　カレンダー　3

展覧会事業
　企画展
　　土に残る記憶Ⅵ 展　4
　　暮らしを彩る明治の「刷り物」展　7
　　播隆が見た山々展　10
　　子どもわくわく文化の森 展　12
　　渡辺英司展　図鑑庭園　The Garden of the Name　15
　　蜂屋柿 その歴史と人々 展　16
　　逍遙と『早稲田文學』展　19
　　星野道夫展「星のような物語」―学校向け写真展―　22
　資料紹介展(収蔵品展)　23
　　地域の作家シリーズ　23
　　蚕とまゆ展08　23
　　暮ラシカル道具展09　23
　その他の展示活動　24
　　第53回美濃加茂市美術展　24

講座及び、各種催事　24
　ミュージアムイベント　25
　定期講座　26
　アートな１日講座　26
　四季を食べる講座　26
　くらし体験講座　27
　自然観察講座　27
　夏休み子ども講座　27
　ミュージアム・フォーラム　28
　ミュージアム・トーク　28
　ふらっとみゅーじあむ　28
　文化の森たんけんたい　29
　フォレスタくらぶ　29

学校活用　30

収集・保存・整理・調査・その他　30
　資料収集、整理、活用　32
　資料保存　33
　博物館実習　34
　刊行物　34
　報道関係の掲載・紹介状況　34

施設の利用状況　35

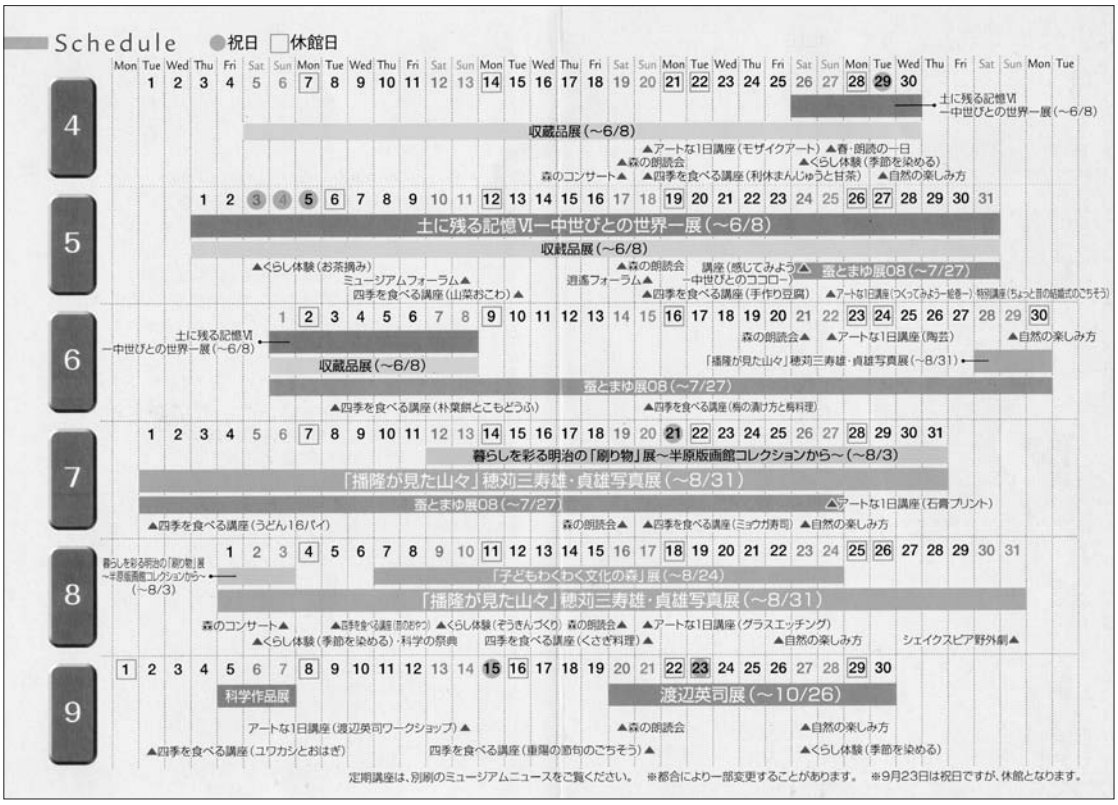
組織・構成・その他　36

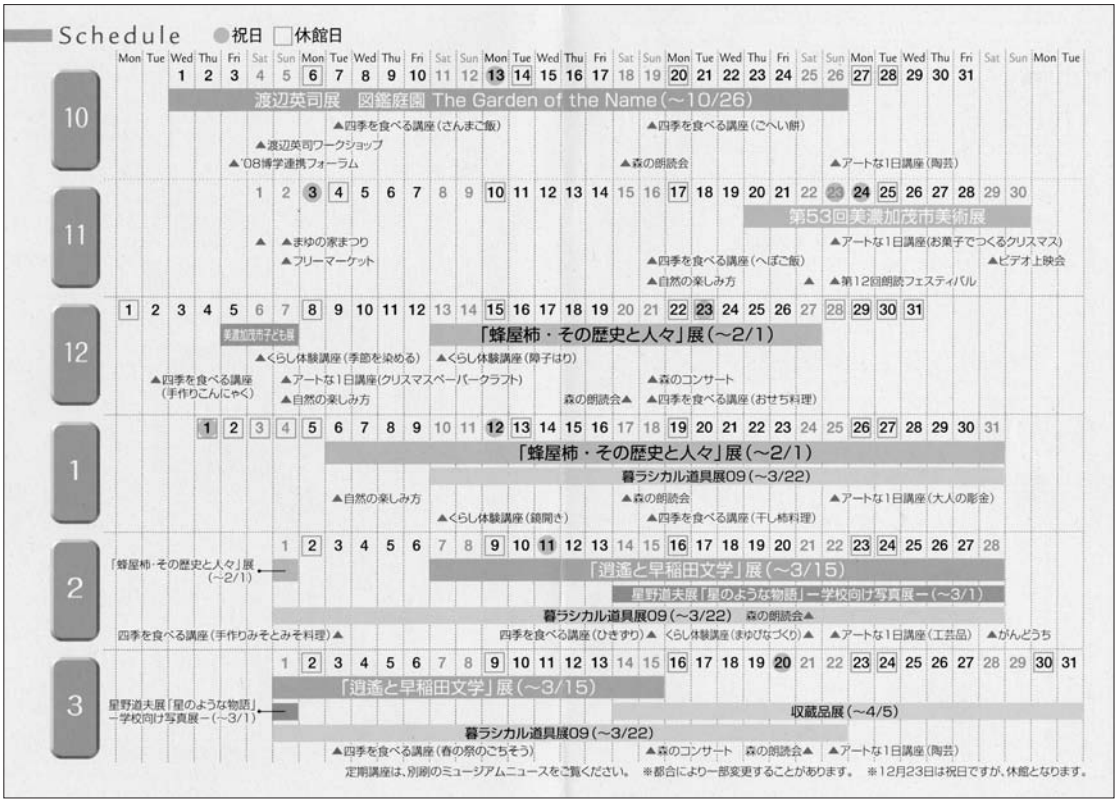
森のアンケート集計　37

施設概要・利用案内　39

みのかも文化の森の沿革　41

# ミュージアム　カレンダー




＊このミュージアムカレンダーは当初のデータを掲載しているため、一部変更された催し物もそのまま掲載しております。

# 土に残る記憶Ⅵ―中世びとの世界－　展

会　　期　2008 年 4 月 26 日（土）～6 月 8 日（日）〈37 日間〉
会　　場　企画展示室
展示資料　81 件
観 覧 料　一般 200 円（100 円）高校生以下　無料
入場者数　779 人

内　　容

わたしたちは、土に残された遺跡から過去の時代を捉え、復元していくことができます。これまでに、旧石器～奈良時代について歴史を追ってきました。

今回の企画展では、美濃加茂市域でも出土品が隆盛となる「中世」（特に 11～15 世紀）といわれる時代に注目します。この時代の様子や人々がどのように暮らしていたかについて考える機会となるよう、岐阜県の資料を中心に展示しました。

また、学校の学習活動とも連携し、出土品などを手でさわることのできるコーナー、体験講座、児童生徒が地域の考古学調査をすすめられるような研究方法なども紹介しました。

関連行事

■ミュージアムフォーラム「文字資料からみる中世びとの生活」
5 月 11 日（日）　13:30～15:30　研修室　参加無料　参加者：25 人
講師：清田善樹氏（岐阜聖徳学園大学教授）
■体験講座「感じてみよう―中世びとのココロ―」
5 月 24 日（土）　13:00～15:00　瑞林寺（美濃加茂市蜂屋町）　参加無料　参加者：13 人
■アートな 1 日講座「つくってみよう－絵巻－」
5 月 25 日（日）　13:00～16:00　参加料 500 円　参加者：10 人
■ミュージアムトーク（展示解説）
4 月 27 日（日）　11:00～12:00、14:00～15:00　参加者：15 人
5 月 1 日　（木）　11:00～12:00、14:00～15:00　参加者：11 人

資料目録

| 番号 | 資 料 名 | 点数 | 遺 跡 名 | 時　期 | 所蔵・管理者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕(常滑) | 1 | 円満寺遺跡 | 15 世紀前半 | 館蔵 |
| 2 | 四耳壺 | 3 | 円満寺遺跡ほか | 13 世紀中葉 | 美濃加茂市立蜂屋小学校　蔵・館蔵 |
| 3 | 漆付土器 | 6 | 尾崎遺跡ほか | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵<br>館蔵 |
| 4 | 漆付土器 | 2 | 寺屋敷遺跡 | 10 世紀前半 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 5 | ベンガラ付土器 | 1 | 勝更白山神社遺跡 | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 6 | 「鶴？」が描かれた碗 | 1 | 丸石古窯跡群 | 12 世紀末葉～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 7 | 人物像頭部 | 1 | 丸石古窯跡群 | 12 世紀末葉～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 尾崎遺跡出土土器 | 5 | 尾崎遺跡 | 中世前期 | 館蔵 |
| 9 | 後田遺跡出土土器 | 5 | 後田遺跡 | 12 世紀後葉～13 世紀前葉 | 館蔵 |
| 10 | 屋敷で使われた土器 | 8 | 大坪遺跡 | 15 世紀 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 11 | 屋敷で使われた土器 | 5 | 冨田清友遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 12 | 屋敷で使われた土器 | 4 | 深渡 A 地点遺跡 | 14 世紀後葉～16 世紀中葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 13 | 屋敷で使われた土器 | 8 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 14 | 碗（山茶碗） | 1 | 改田遺跡 | 15 世紀前半 | 美濃市教育委員会　蔵 |
| 15 | 碗（青磁） | 1 | 改田遺跡 | 15 世紀末葉 | 美濃市教育委員会　蔵 |
| 16 | 皿（土師器） | 3 | 改田遺跡 | 中世後期 | 美濃市教育委員会　蔵 |
| 17 | 屋敷で使われた土器 | 10 | 中屋敷遺跡 | 中世後期 | 美濃市教育委員会　蔵 |
| 18 | 屋敷で使われた土器 | 7 | 郷上遺跡 | 中世後期～戦国 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 19 | 碗（青白磁） | 1 | 郷上遺跡 | 14 世紀 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 20 | 碗（青磁） | 1 | 郷上遺跡 | 14 世紀後半～15 世紀前半 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 21 | 皿（染付） | 1 | 郷上遺跡 | 15 世紀後半～16 世紀前半 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 22 | 羽口 | 1 | 郷上遺跡 | 中世～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 23 | 茶臼 | 1 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 24 | 石臼 | 1 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 25 | 横槌 | 1 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 26 | 馬鍬の歯 | 2 | 柿田遺跡 | 中世後期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 27 | 井戸枠に使われた曲物 | 1 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 28 | 柄杓 | 1 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 29 | 水辺に残された土器 | 6 | 野笹遺跡 | 12 世紀後葉～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 30 | 碗（山茶碗） | 1 | 佐口遺跡 | 13 世紀後葉～14 世紀初頭 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 31 | 皿（山茶碗） | 2 | 佐口遺跡 | 13 世紀中葉～14 世紀初頭 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 32 | 石組内出土土器 | 5 | 木ノ下遺跡 | 14～15 世紀前葉 | 館蔵 |
| 33 | 井戸内出土土器 | 4 | 木ノ下遺跡 | 13～14 世紀 | 館蔵 |
| 34 | 墓に供えられた土器 | 3 | 神輿休遺跡 | 中世前期 | 美濃市教育委員会　蔵 |
| 35 | 墓に供えられた土器 | 3 | 今渡遺跡 | 15 世紀 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 36 | 銭貨 | 6 | 今渡遺跡 | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 37 | 火葬された骨 | 1 | 今渡遺跡 | － | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 38 | 墓に供えられた土器 | 4 | 清水経塚 | 14 世紀 | 可児市教育委員会　蔵 |
| 39 | 石仏（阿弥陀如来坐像） | 1 | 清水経塚 | 中世 | 可児市教育委員会　蔵 |
| 40 | 墓に供えられた土器 | 8 | 水入遺跡 | 14 世紀前半 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 41 | 刀子 | 1 | 水入遺跡 | 14 世紀前半 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 42 | 経筒（外）容器 | 2 | 洞雲戸遺跡 | 12 世紀末葉～13 世紀前半 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 43 | 経塚や墓に供えられたもの | 6 | 洞雲戸遺跡・上開田村平遺跡 | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 44 | 刀子 | 1 | 円満寺遺跡 | 13 世紀中葉 | 館蔵 |
| 45 | 火葬された骨 | 1 | 円満寺遺跡 | 13 世紀中葉 | 館蔵 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 墓に供えられた土器 | 4 | 小貝戸 2 号古墳 | 12 世紀後葉～13 世紀前葉 | 館蔵 |
| 47 | 火葬された骨 | 1 | 小貝戸 2 号古墳 | 12 世紀後葉～13 世紀前葉 | 館蔵 |
| 48 | 砥石(荒砥) | 1 | 重竹遺跡 | 中世～近世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 49 | 砥石(中砥) | 1 | 重竹遺跡 | 中世～近世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 50 | 砥石(仕上げ砥) | 4 | 重竹遺跡 | 中世～近世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 51 | 羽口 | 1 | 重竹遺跡 | 中世～近世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 52 | 炉壁 | 2 | 金屋遺跡 | ― | 可児市教育委員会　蔵 |
| 53 | 下駄(連歯) | 1 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 54 | 下駄(差歯) | 1 | 柿田遺跡 | 中世後期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 55 | 櫛 | 1 | 柿田遺跡 | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 56 | 漆椀 | 2 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 57 | 窯跡に残された土器 | 10 | 浜井場 3 号窯跡(北小木) | 13 世紀前葉～中葉 | 多治見市教育委員会　蔵 |
| 58 | 碗(山茶碗) | 2 | 南整理遺跡 | 12 世紀後半～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 59 | 小碗・皿(山茶碗) | 2 | 南整理遺跡 | 12 世紀後半～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 60 | 甕(常滑) | 1 | 南整理遺跡 | 中世～近世 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 61 | 皿(土師器) | 1 | 南整理遺跡 | 15 世紀前半 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 62 | 碗(青磁) | 1 | 重竹遺跡 | 14 世紀 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 63 | 輪花皿(染付) | 1 | 徳山陣屋跡 | 15～16 世紀 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 64 | 皿(白磁) | 2 | 徳山陣屋跡 | 15 世紀後半～16 世紀 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 65 | 墨書土器 | 16 | 柿田遺跡ほか | 中世 | 岐阜県教育委員会　蔵<br>館蔵 |
| 66 | 墨書土器 | 3 | 土田遺跡 | 12 世紀後葉～13 世紀後葉 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 67 | 墨書土器 | 8 | 梅田遺跡ほか | 中世 | 鈴鹿市考古博物館　蔵 |
| 68 | 刻書土器 | 5 | 永保寺庫裡跡ほか | 11 世紀中葉～14 世紀前葉 | 多治見市教育委員会　蔵 |
| 69 | 刻書土器 | 1 | 重竹遺跡 | 中世後期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 70 | 四葉硯 | 1 | 丸石古窯跡群 | 12 世紀末葉～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 71 | 方形硯 | 1 | 丸石古窯跡群 | 12 世紀末葉～13 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 72 | 鳥形水滴 | 1 | 佐口遺跡 | 中世後期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 73 | 独楽？ | 1 | 柿田遺跡 | 中世前期 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 74 | 羽子板 | 1 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 75 | 碁石(黒) | 2 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 76 | 碁石(白)？ | 1 | 郷上遺跡 | 戦国～近世 | 愛知県埋蔵文化財調査センター　蔵 |
| 77 | 陶丸 | 1 | 木ノ下遺跡 | 中世～近世 | 館蔵 |
| 78 | 鉢(山茶碗) | 1 | 徳山陣屋跡 | 13 世紀後葉～14 世紀前葉 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 79 | 擂鉢(越前) | 1 | 徳山陣屋跡 | 15 世紀後半 | 岐阜県教育委員会　蔵 |
| 80 | 今遺跡出土土器 | 5 | 今遺跡 | 中世 | 館蔵 |
| 参考資料 | 廿屋白山神社棟札 | 1 | 廿屋白山神社 | 弘治 3(1557)年 | 白山神社　蔵 |

# 暮らしを彩る明治の「刷り物」展　～半原版画館コレクションから～

会　　期　2008 年 7 月 12 日（土）～8 月 3 日（日）〈20 日間〉
会　　場　企画展示室
展示作品　132 点　　展示資料　4 点
観 覧 料　200 円（100 円）　高校生以下無料
入場者数　423 人

内　　容

美濃加茂市民ミュージアムでは、昔の道具や人々の暮らしに焦点をあてた研究や展示を行い、体験を通して学ぶことを意図した活動を続けてきました。この展覧会では明治時代の石版画を通して、昔の暮らしを探りました。

石版画は当時「刷り物」と呼ばれ、庶民が自ら手に取り楽しむ絵画として流通していました。印刷技術が移り変わる中、写真に近い再現性をもった石版画は明治 20 年代に最盛期を迎えます。無名の職人たちの高い技術によって生み出された石版画には、当時の様々な流行や時勢が反映されています。都会の風景や名所、遊ぶ子どもの姿に和装・洋装の美しい女性、戦争や歴史など様々な画題を取り上げた額絵、学術書や雑誌の図版、小説の挿絵にいたるまで、多様な展開を見せます。それらは、この時代特有の色彩感覚と美意識を示しています。

地質学者でもある糸魚川淳二氏が館長を務める半原版画館（瑞浪市日吉半原）に収蔵された 2,000 点を超えるコレクションは、広範で網羅的であり、石版画の歴史の体系的な裏付けをも可能にする充分な内容を備えています。技術革新の中で勃興した石版技法の変遷と明治の歴史とを紹介し、多様な美しさと面白さをみせる石版画の数々を展覧しました。

関連行事

■ミュージアムフォーラム「明治の石版画と半原版画館」
7 月 20 日（日）14:00～15:30　研修室　参加無料　参加者：33 人
講　師　糸魚川淳二氏（半原版画館館長）
■アートな 1 日講座「石膏プリント」
7 月 27 日（日）13:00～16:00　工芸室　参加料：700 円　参加者：10 人
■ミュージアムトーク
7 月 13 日（日）11：00～12:00（参加者：3 人）、14:00～15:00（参加者：4 人）企画展示室

刊 行 物

■『暮らしを彩る明治の「刷り物」展　―半原版画館コレクションから―』　A4 判　6 頁　価格 100 円

作品・資料目録

| 番号 | 名　　称 | 制作年 | 技法 | 画者、発行元等 | サイズ（cm） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 『奥地誌略』 | 1877 年 | 単色石版 | 西村茂樹（編輯纂輯人）　内田正義（出版人） | 25.3×18.0 |
| 2 | 魯西亜帝ピイトル之像 | 1878 年 | 単色石版 | 大山助市（画者）　紙幣局彫刻部 | 51.5×36.6 |
| 3 | 『国華余芳　伊勢内外神宝部』 | 1880 年 | 多色石版 | 大蔵省印刷局 | 34.3×24.4 |
| 4 | 『国華余芳　正倉院御物』 | 1880 年 | 多色石版 | 大蔵省印刷局 | 34.3×24.4 |
| 5 | 『国華余芳　古書之部』 | 1880 年 | 多色石版 | 大蔵省印刷局 | 34.3×24.7 |
| 6 | 田子之浦真景 | 1881 年 | 石版筆彩 | 楠山秀太郎（石印） | 28.5×39.6 |
| 7 | 従薩埵山望冨嶽之図 | 1881 年 | 単色石版 | 金阪繁蔵（画工・出版） | 35.1×46.0 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 東京今春歌妓小鈴 | 1882 年 | 石版筆彩 | 奥村捨四朗（画工）　楠山秀太郎（石印） | 38.4×27.1 |
| 9 | 『大成普通画学本』 | 1882 年 | 単色石版 | 守住勇魚（著者）　水口龍之助（出版）　三友舎蔵梓 | 14.6×20.8 |
| 10 | 『理科会粋　第四帙　附録　常北地質編』 | 1883 年 | 単色石版 | 東京大学（印行） | 28.0×19.8 |
| 11 | 『なみまの錦』 | 1883 年 | 多色石版 | 大蔵省印刷局 | 26.5×39.6 |
| 12 | 『小説蒂木』 | 1884 年 | 単色石版 | 廣瀬貞恒（著）　集英社（発兌）　廣瀬甫・赤坂亀次郎（出版） | 18.3×12.1 |
| 13 | 駿州吉原ノ景 | 1885 年 | 石版筆彩 | 写真石版社（製造）　亀井至一（出版）　鈴木鑑太郎（画工） | 30.0×45.1 |
| 14 | 島原清治 | 1885 年 | 石版筆彩 | 楠山秀太郎（画工・石印・出版） | 48.5×36.5 |
| 15 | 『新編普通画学本　巻之壹　山水及家屋之部』 | 1885 年 | 単色石版 | 松本民治（編纂）　榊原友吉・長島為一郎（出版） | 14.2×18.2 |
| 16 | 『新編普通画学本　巻之六　鳥獣及魚之部』 | 1885 年 | 単色石版 | 松本民治（編纂）　榊原友吉・長島為一郎（出版） | 14.2×18.2 |
| 17 | 小児犬戯図 | 1886 年 | 石版筆彩 | 藪崎芳次郎（画工・出版） | 30.9×40.6 |
| 18 | 『寸陰漫稿』 | 1886 年 | 多色石版 | 渡辺幽香（画） | 34.5×26.2 |
| 19 | 『世界進歩　第二十世紀』 | 1886 年 | 単色石版 | アーロビダー（著者）服部誠一（訳）岡島真七（出版）岡島支店 | 19.0×13.3 |
| 20 | 『齋武名士　経国美談』 | 1886 年 | 単色石版 | 矢野文雄（纂訳補述）　報知社（発兌）　博聞社・丸善書店（売捌） | 18.3×13.0 |
| 21 | 『佳人之奇遇』 | 1886 年 | 単色石版 | 東海散士（著作）　柴四朗（著出版）　博文堂・原田庄左衛門（製本発売） | 23.4×14.8 |
| 22 | 慈母教育之図 | 1887 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 36.9×48.4 |
| 23 | 吾妻橋真景 | 1887 年 | 単色石版 | 矢島智三郎（発行・印刷） | 36.9×48.5 |
| 24 | 小児喜遊之図 | 1887 年 | 単色石版 | 藪崎芳次郎（画工・出版） | 49.4×36.8 |
| 25 | 洋人銃猟之図 | 1887 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画工・出版） | 36.9×48.8 |
| 26 | 大阪府局学校大運動会之図 | 1888 年 | 多色石版 | 片野仁三郎（画者・発行・印刷） | 36.4×47.8 |
| 27 | 観兵式之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 野村銀次郎（出版）銀花堂蔵版　小泉市太郎（印刷） | 35.5×45.5 |
| 28 | 枢密院会議之図 | 1888 年 | 単色石版 | 辻本九兵衛（発行）　文榮社・伊藤源吉（画作・印刷）　熊沢石版舗・徳島商店（大売捌） | 27.5×41.8 |
| 29 | 亀戸天神初卯之図 | 1888 年 | 単色石版 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 42.3×31.1 |
| 30 | 洲崎汐干之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 清水市郎（印刷・発行・画作） | 30.8×40.8 |
| 31 | 東京両国花火打上之景 | 1888 年 | 単色石版 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 35.4×51.5 |
| 32 | 児童弄犬図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 40.9×31.7 |
| 33 | 小児春遊之図 | 1888 年 | 単色石版 | 藪崎芳次郎（画工・発行）　小島幸作（印刷） | 35.0×43.0 |
| 34 | 親愛ノ姉稚児喜ビノ図 | 1888 年 | 単色石版 | 岡村政子（画工）　岡村竹四郎（発行）　小野康太郎（印刷人　信陽堂技工）　信陽堂（発兌）　熊澤喜太郎（売捌所） | 48.8×37.0 |
| 35 | 近江八景之内　堅田ノ落雁 | 1888 年 | 石版筆彩 | 渡邉忠久（画作・発行） | 38.0×49.3 |
| 36 | 美女矮狗抱之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 渡邉忠久（印刷・発行） | 49.4×36.8 |
| 37 | 美人小児遊之図 | 1888 年 | 単色石版 | 林吉蔵（印刷・発行） | 46.9×35.5 |
| 38 | 同胞共ニ楽 | 1888 年 | 石版筆彩 | 石坂兵造（印刷・発行・画作） | 29.1×38.4 |
| 39 | 愛犬之図 | 1888 年 | 単色石版 | 藪崎芳次郎（画工・発行）　小島幸作（印刷） | 48.7×38.3 |
| 40 | 婦女勉業之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・出版）　田中吉五郎（印刷） | 37.6×45.3 |
| 41 | 童児愛犬之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 香山秀吉（画作・発行）　矢島智三郎（印刷）　盛廣堂（製造） | 32.9×43.9 |
| 42 | 木曽義仲粟津ニ於テ泥沼ニ陥ルノ図 | 1888 年 | 単色石版 | 岡村政子（画作）　酒井鈴子（石画者）　岡村竹四郎（発行）　信陽堂（発兌）　中村甚蔵（印刷） | 31.4×40.6 |
| 43 | 婦女唱歌之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 37.0×45.4 |
| 44 | 小学生徒体操之図 | 1888 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 36.6×45.6 |
| 45 | 美人小児ヲ愛スル図 | 1888 年 | 単色石版 | 富田貞作（画工・発行）　佐藤千代松（印刷） | 49.7×37.5 |
| 46 | 『面白奇聞　滑稽狂進怪』 | 1888 年 | 二色石版 | 金桜堂（蔵版）　内藤加我（著作・発行）　瀧川三代太郎（印刷） | 18.6×12.8 |
| 47 | 宮中ノ賑ヒ | 1889 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 38.2×48.5 |
| 48 | 大日本帝国憲法発布正式之図 | 1889 年 | 多色石版 | 文敬堂（刊行）　梶田喜蔵（画作・発行）　伊藤源吉（文栄社石版部印刷者）　清水三壽浄写（画者） | 35.7×49.7 |
| 49 | 隅田川遊船之図 | 1889 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（発行・印刷） | 36.1×48.9 |
| 50 | 東都墨堤之花競 | 1889 年 | 石版筆彩 | 学校用幻燈及映画製造所・吉原秀雄（画工・印刷・発行） | 40.1×28.9 |
| 51 | 入谷之朝顔 | 1889 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 40.7×31.9 |
| 52 | 小児遊戯之図 | 1889 年 | 単色石版 | 岡村政子（画作）　酒井鈴子（石画）　岡村竹四郎（発行）　小野康太郎（印刷人信陽堂技巧） | 37.6×48.5 |
| 53 | 於野邊小児見群鶏図 | 1889 年 | 石版筆彩 | 渡邉忠久（画作・印刷・発行） | 30.8×38.4 |
| 54 | 東京待乳山雪夜景 | 1889 年 | 石版筆彩 | 潮瀬茂一（画作・発行・印刷） | 36.5×48.5 |
| 55 | 開化美人 | 1889 年 | 石版筆彩 | 藪崎芳次郎（画工・発行）　小島幸作（印刷） | 48.3×36.2 |
| 56 | 婦女子之嗜 | 1889 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎・天島德三郎（画作・発行）　島田清（印刷） | 48.8×36.5 |
| 57 | 墨堤曙桜之図 | 1889 年 | 多色石版 | 圓山磯次郎（印刷・発行）　新致堂（製造） | 38.3×50.4 |
| 58 | 都之花 | 1889 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎（画作・印刷・発行）　美術着色会社（製造） | 40.6×30.3 |
| 59 | 母子愛育之図 | 1889 年 | 石版筆彩 | 吉原秀雄（画工・印刷・発行） | 37.3×47.2 |
| 60 | 愛思影 | 1889 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎・夫島德三郎（画作・発行）　島田清（印刷） | 49.2×36.7 |
| 61 | 月夜之美人 | 1889 年 | 石版筆彩 | 鈴鹿保家（印刷・発行） | 44.3×31.9 |
| 62 | 令嬢洋書ヲ弄スル図 | 1889 年 | 単色石版 | 矢島智三郎（発行・印刷） | 38.2×51.0 |
| 63 | 家庭教育　婦女子之嗜 | 1889 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 44.2×32.8 |
| 64 | 教訓画　森蘭丸 | 1889 年 | 二色石版 | 楠山正雄（印刷・発行）　鶴淵初蔵（画者・発行） | 32.3×44.3 |
| 65 | 教訓画　ワシントン | 1889 年 | 多色石版 | 楠山正雄（印刷・発行）　鶴淵初蔵（画作・発行） | 33.1×43.2 |
| 66 | 生徒戻道戯之図 | 1889 年 | 石版筆彩 | 荒川藤兵衛（画工・発行）　田中吉五郎（印刷） | 29.3×39.1 |
| 67 | おかる | 1889 年 | 単色石版 | 岡村政子（画作）　酒井鈴子（石画）　岡村竹四郎（発行）　小野康太郎（印刷人　信陽堂技工）　信陽堂（印行） | 46.7×35.6 |
| 68 | 博士ボールドウイン氏兄弟　米國人軽気球乗 | 1890 年 | 石版筆彩 | 美術着色会社（製造） | 41.0×26.5 |
| 69 | 海濱納涼坐図 | 1890 年 | 石版筆彩 | 清水市郎（印刷・発行・画作） | 38.6×28.7 |
| 70 | 東京自慢　両国之花火 | 1890 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎（画作・印刷・発行） | 30.7×42.8 |
| 71 | 恐悦三児笑 | 1890 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎・夫島德三郎（画作・印刷・発行）美術着色会社（製造） | 36.4×48.8 |
| 72 | 菅公在謫所教児童図 | 1890 年 | 多色石版 | 渡辺忠久（画作・印刷・発行）　誠協堂（製造） | 36.5×48.6 |
| 73 | 専売特許蚕業器械販売広告 | 1890 年 | 単色石版 | 飯島重平（編集・発行）　小俣參伍（印刷）　蚕業方鍼社（発行） | 38.1×51.3 |
| 74 | 東京中新聞付録 | 1890 年 | 多色石版 | 米川瀧熊（発行・印刷）　清水義崇（編集人） | 55.2×39.4 |
| 75 | 『日本農工図絵』 | 1890 年 | 多色石版 | 二神純孝（画）　東京日本堂（製造） | 18.5×24.9 |
| 76 | 鳥之市賑 | 1891 年 | 石版筆彩 | 熊沢喜太郎（画作・印刷・発行） | 41.2×31.7 |
| 77 | 雪中美人 | 1891 年 | 石版筆彩 | 渡辺忠久（画作・印刷・発行）　誠協堂（製造） | 42.7×31.2 |
| 78 | 当世十二ヶ月之内一月　最愛之令娘 | 1891 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 30.0×39.7 |
| 79 | 小児稲荷祭之図 | 1891 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 48.4×36.7 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 | 大日本五港之内　横濱港 | 1891 年 | 石版筆彩 | 藪崎芳次郎（画作・印刷・発行） | 32.0×40.4 |
| 81 | 家庭教育　美人詠歌 | 1891 年 | 石版筆彩 | 矢島智三郎（発行・印刷） | 47.0×36.1 |
| 82 | 名古屋旧城 | 1891 年 | 単色石版 | 耕文堂（製造）　後藤彦右衛門（画作・印刷・発行） | 32.5×41.0 |
| 83 | 新愛知特別号外 | 1891 年 | 単色石版 | 森貴之（発行・印刷）　山口三郎（編集人）　新愛知社（発行所） | 39.0×54.0 |
| 84 | 実地写生　濃尾震災図絵 | 1891 年 | 多色石版 | 美術着色会社　勝山繁太郎（画作・印刷・発行） | 11.0×19.3 |
| 85 | ビスマルク氏肖像 | 1891 年 | 単色石版 | 森口栄太（画作・印刷・発行） | 48.6×36.8 |
| 86 | 笑門福来 | 1891 年 | 石版筆彩 | 勝山繁太郎（画作・印刷・発行）　美術着色会社（製造） | 34.2×45.2 |
| 87 | かはをそ | 1891 年 | 多色石版 | 金港堂書籍株式会社　三間石版所（印刷所） | 37.0×46.2 |
| 88 | 『懐古東海道五十三駅真景』 | 1891 年 | 多色石版 | 大山周蔵（画工・印刷・発行人） | 21.3×28.7 |
| 89 | 『一読奮起　立誌美談』 | 1891 年 | 単色石版 | 今泉啓三郎（著作）　伊藤岩次郎（発行）　近藤圭造（印刷）　柳原喜兵衛（発兌） | 19.1×13.4 |
| 90 | 東京美人ノ内　大黒屋由子 | 1892 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 45.6×35.1 |
| 91 | 水遊 | 1892 年 | 石版筆彩 | 藪崎芳次郎（画作・印刷・発行） | 40.8×31.6 |
| 92 | 明治婦人風俗画　菊見 | 1892 年 | 多色石版 | 有山定次郎（画作・印刷・発行） | 32.0×44.6 |
| 93 | 女禮式教訓画　挿花 | 1892 年 | 石版筆彩 | 渡辺忠久（画作・印刷・発行） | 30.3×40.3 |
| 94 | 明治婦人風俗画　養蚕 | 1892 年 | 多色石版 | 有山定次郎（画作・印刷・発行）　間野駒吉（印刷人） | 38.6×54.3 |
| 95 | 小学校 | 1892 年 | 単色石版 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 32.0×43.5 |
| 96 | 日本一 | 1892 年 | 石版筆彩 | 矢島智三郎（発行・印刷） | 35.6×46.6 |
| 97 | 十二支ノ内　戌 | 1892 年 | 石版筆彩 | 藪崎芳次郎（画作・印刷・発行） | 40.0×52.2 |
| 98 | 茶摘 | 1893 年 | 単色石版 | 太田節次（画作・印刷・発行） | 33.6×43.7 |
| 99 | 養蚕図解 | 1893 年 | 多色石版 | 有山定次郎（画作・印刷・発行） | 19.6×26.0 |
| 100 | 名古屋離宮 | 1893 年 | 二色石版 | 笠原保久（画作・発行）　坂治助（印刷） | 36.8×45.4 |
| 101 | 大日本名城二十三号 | 1893 年 | 単色石版 | 後藤彦右衛門（画作・発行）　後藤秀造（印刷） | 36.0×45.2 |
| 102 | 『濃尾震誌』 | 1893 年 | 単色石版 | 片山逸朗（編集・発行）　齋藤章達（印刷）　勝沼武一（発行所）　泰錦堂（石版挿画印刷所） | 22.2×14.8 |
| 103 | 『地質学雑誌　第壹巻　第参号』 | 1893 年 | 単色石版 | 平木政次（編纂人）　石川茂夫（発行）　熊田宣遜（印刷人）　熊田活版所（印刷所）　敬業社（発行所） | 22.5×15.4 |
| 104 | 旅順口砲臺攻撃之図 | 1894 年 | 石版筆彩 | 渡邉忠久（画作・印刷・発行） | 33.3×44.4 |
| 105 | 時事新報七月附録　富士 | 1894 年 | 単色石版 | 渡辺文三郎（画）　信陽堂（石印）　時事新報社 | 30.6×38.8 |
| 106 | 時事新報八月附録　夕涼 | 1894 年 | 二色石版 | 印藤真楯（画）　信陽堂（石印）　時事新報社 | 31.5×39.0 |
| 107 | 『中等画学臨本　第一篇』 | 1894 年 | 単色石版 | 小山正太郎（著作）　東京成美堂（発行）　河出静一郎（発行）　成美堂書店（発行所） | 18.7×26.4 |
| 108 | 吉原之名婦於幸 | 1895 年 | 石版筆彩 | 矢島録（出版）　福宮源治郎（画工） | 49.3×36.6 |
| 109 | 今様女礼集　姉妹の睦 | 1895 年 | 石版筆彩 | 太田節次（画作・印刷・発行□） | 36.4×49.7 |
| 110 | 日本三景　厳島 | 1895 年 | 二色石版 | 辻本仁兵衛（画作・発行・印刷） | 38.3×53.2 |
| 111 | 東京名所の内　浅草観世音之景 | 1895 年 | 石版筆彩 | 熊澤喜太郎（画作・印刷・発行） | 37.3×51.0 |
| 112 | 美人の風俗　ようさん | 1895 年 | 多色石版 | 有山定次郎（画作・印刷・発行） | 29.9×44.0 |
| 113 | 『小学画手本　第四編之上』 | 1896 年 | 単色石版 | 浅井忠（著作・筆者）　金港堂書籍株式会社（発兌） | 14.9×21.8 |
| 114 | 天心爛熳 | 1899 年 | 二色石版 | 浅沼宗吉（画作・発行・印刷） | 44.3×34.0 |
| 115 | 大日本帝国皇太子殿下御結婚式之図 | 1900 年 | 二色石版 | 太田節次（発行）　細崎安太郎（印刷）　東陽館 | 39.5×54.8 |
| 116 | 大日本國会議場之図 | 1900 年 | 石版筆彩 | 渡辺忠久（画作・印刷・発行） | 36.3×47.1 |
| 117 | 東京上野公園之真景 | 1900 年 | 多色石版 | 渡邉忠久（画作・印刷・発行） | 36.6×48.8 |
| 118 | 藤原の鎌足 | 1900 年 | 多色石版 | 笠井鳳齋（図案）　町田信次郎（画）　中嶋石松（編集発行）田中吉五郎（印刷）　末聲堂（発売） | 47.4×61.3 |
| 119 | 教育女禮式 | 1901 年 | 多色石版 | 綱島亀吉（編集・印刷・発行） | 18.8×26.7 |
| 120 | 『動物学雑誌　第十三巻　第百五十号』 | 1901 年 | 多色石版 | 東京動物学会雑誌部　井上蘇吉（編集発行）　齋藤章造（印刷）　東京印刷株式会社（印刷所）　創業社 | 25.2×17.8 |
| 121 | 動物園近着猛鳥獣 | 1902 年 | 多色石版 | 太田節次（印刷・発行） | 39.8×54.7 |
| 122 | 『滑稽寓話』 | 1903 年 | 多色石版 | F.W.イーストレーキ（著者）　中野鋏太郎（印刷）　金刺源次（発行）　帝国印刷株式会社（印刷所） | 15.0×11.6 |
| 123 | 我第二軍遼東半島前進根據ニ地上陸之光景 | 1904 年 | 多色石版 | 黒木半之助（画作・印刷・発行）　博画館（発行所） | 38.0×49.5 |
| 124 | 満州軍総司令部之凱旋上野公園祝捷会ノ光景 | 1905 年 | 多色石版 | 青雲堂　葛西虎次郎（画作・印刷・発行） | 39.5×54.5 |
| 125 | ほととぎす | 1906 年 | 多色石版 | 廣正堂　勝田徳次郎（画作・印刷・発行） | 54.8×39.2 |
| 126 | 皇城二重橋之夜景 | 1906 年 | 多色石版 | 田中良三（画作・発行・印刷） | 39.3×54.5 |
| 127 | 玉や | 1906 年 | 二色石版 | 田中良三（画作・発行・印刷）　尚美堂（発行） | 44.8×31.9 |
| 128 | 百華美人　風俗ノ内　花よめ | 1907 年 | 二色石版 | 葛西虎次郎（画作・印刷・発行）　青雲堂石版部（製版）　青雲堂（発行） | 48.9×35.3 |
| 129 | 教育日本歴史画　忠臣義士四十七士 | 1910 年 | 多色石版 | 田中良三（画作・発行・印刷）　尚美堂（発行） | 39.0×54.5 |
| 130 | 『尋常小学 新定画帖　第六学年　男生用』 | 1910 年 | 多色石版 | 文部省（発行著作）　凸版印刷株式会社 | 14.9×22.3 |
| 131 | 『尋常小学 新定画帖　第六学年　女生用』 | 1910 年 | 多色石版 | 文部省（発行著作）　凸版印刷株式会社 | 14.9×22.3 |
| 132 | 定光寺全景 | 1911 年 | 単色石版 | 野崎華年（著者）　定光寺（発行所） | 39.2×54.0 |
| 資 1 | 『国華余芳　伊勢内外神宝部』　刷り見本 | 1880 年頃 | 多色石版 | | 41.1×55.0 |
| 資 2 | 『なみまの錦』　刷り見本 | 1883 年頃 | 多色石版 | | 32.3×50.5 |
| 資 3 | 石版石 | | | | 15.2×20.4×5.8 |
| 資 4 | 石版石 | | | | 30.2×46.0×6.3 |

# 穂苅三寿雄・貞雄写真展「播隆が見た山々」

会　　期　2008 年 6 月 28 日（土）～8 月 31 日（日）〈55 日間〉
会　　場　美術工芸展示室
展示作品　46 点　　展示資料　3 点
観 覧 料　無　料

内　　容

江戸時代の念仏行者・播隆（1786～1840）は、越中国（現在の富山県）で生まれ、深山幽谷で修行するかたわら、文政年間に槍ヶ岳（3,180 ㍍）に仏像を安置し参道を開きました。その途中、美濃加茂地域にも何度も立ち寄り人々と交流を深めました。数多く残る「南無阿弥陀仏」と記された石造の名号碑などがそのことを物語っています。天保 11 年（1840）、滞在していた中山道太田宿脇本陣でなくなりました。

播隆が槍ヶ岳開山にあたって見た山々。その光景は長い時がたった現在も、私たちに自然の厳しさと美しさを伝えています。親子で山岳写真家として知られる穂苅三寿雄（1891～1966）、貞雄（1921～）両氏は山小屋を経営する傍ら、迫力ある写真を撮り続け、一方で播隆の研究者としても大きな業績を上げています。三寿雄氏の撮影した大正末から昭和初期にかけての槍ヶ岳を中心とした貴重な山岳写真ならびに今なお精力的に山々の表情を撮り続けている貞雄氏の作品を紹介しました。

関連行事

■ミュージアムトーク「北アルプスの山々にふれて」
7 月 6 日（日）　14:00～15:30　美術工芸展示室　参加無料　参加者：80 人
講師　山岳写真家・穂苅貞雄氏
■播隆ゆかりの地めぐり
7 月 27 日（日）　9:30～11:30　旧中山道太田宿　参加無料　参加者：26 人
講師　展示ガイドボランティア

作品・資料目録

| 番号 | 作品名／資料名 | 撮影場所 | 作者など | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暮れゆく笠ヶ岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 2 | 小槍登攀 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 3 | 夏の槍ヶ岳と天狗池 | 氷河公園 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 4 | 夏の大槍・小槍 | 北鎌平 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 5 | 雲海に浮かぶ笠ヶ岳後方に加賀の白山が見える | 槍ヶ岳肩 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 6 | 岩登り | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 7 | 初夏の槍ヶ岳大喰岳、中岳、南岳、大キレットとつづく | 蝶ヶ岳 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 8 | 早春の槍ヶ岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 9 | 春の大喰岳から穂高連峰を望む | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 10 | 早春の槍ヶ岳 | 燕岳 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 11 | 雲海の裏銀座の山々右端に白馬連峰が見える | 槍ヶ岳肩 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 夏の槍ヶ岳手前にアルプス銀座縦走路 | 燕岳 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 13 | 河童橋と穂高連峰 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 14 | 霧氷・上高地と穂高連峰 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 15 | 新緑の穂高連峰 | 梓川畔 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 16 | 夏雲の流れと穂高連峰 | 河童橋 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 17 | 徳本峠下りからの穂高 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 18 | 初夏の大正池と穂高連峰 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 19 | 冬の大正池と穂高連峰 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 20 | コナシの花と穂高岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 21 | 焼岳大爆発 | 河童橋 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 22 | 大正池の枯れ木と焼岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 23 | 冬の焼岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 24 | 中尾峠からの笠ヶ岳 | | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 25 | 雲晴れる槍ヶ岳 | 槍ヶ岳肩 | 穂苅三寿雄 | 個人蔵 |
| 26 | モンゲンロートの槍ヶ岳 | 燕岳 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 27 | 厳冬の槍ヶ岳 | | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 28 | 風雪の槍ヶ岳 | 燕岳 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 29 | 笠ヶ岳の落日 | 槍ヶ岳肩 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 30 | 岩氷の槍ヶ岳 | | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 31 | 春の雪 | 槍沢ロッジ付近 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 32 | 残照の槍ヶ岳 | 南岳 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 33 | 早春の槍ヶ岳 | 中岳 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 34 | 浅春の常念岳 | 槍ヶ岳肩 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 35 | 芽吹き | 槍沢上部 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 36 | お花畑と槍ヶ岳 | 槍沢 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 37 | 雲上の槍ヶ岳 | 奥穂高岳 | 穂苅貞雄 | 館　蔵 |
| 38 | 槍ヶ岳星夜 | 南岳 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 39 | 夕照の常念岳カナトコ雲 | 槍ヶ岳肩 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 40 | 梓川源流 | 槍沢 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 41 | 秋の槍ヶ岳屏風のコル | | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 42 | 錦秋の槍沢 | | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 43 | ナナカマド紅葉と常念岳 | 西岳 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 44 | 滝雲 | 槍ヶ岳肩 | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 45 | 秋一色天狗原入り口 | | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 46 | ブロッケン | | 穂苅貞雄 | 個人蔵 |
| 47 | 見仏上人作子供教訓いろは和讃播隆施印 | | 見物上人 | 館　蔵 |
| 48 | 信州鎗嶽畧縁起（覆刻／大修館書店） | | 播隆 | 館　蔵 |
| 49 | 迦多賀嶽再興起（覆刻／大修館書店） | | 播隆 | 館　蔵 |

# 子どもわくわく文化の森 展

会　　期　2008 年 8 月 7 日（木）～8 月 24 日（日）〈16 日間〉
会　　場　企画展示室
観 覧 料　無　料

内　　容
　学校教育課・教育センター、文化の森・学芸係、学習係が一緒に企画した展覧会です。見に来てくださった皆さんの夏休みの研究の手引きとして、また博物館を効果的に活用できるようになったり、そして自分たちで知らない誰かと一緒に展覧会を作ったりしていく内容にしたいと考えました。内容により第 1 期と第 2 期に分けました。

関連行事
　■オープニングイベント「科学の祭典　in　みのかも」
　　8 月 2 日（土）10:00～12:00、13:00～15:00　エントランスホールほか　参加無料

◆［第 1 期］8 月 7 日（木）～8 月 10 日（日）「はじめる」
　これまでの科学作品展・社会科作品展で受賞した研究作品や、文化の森での学習を契機として行った考古学研究などの作品を展示しました。また、美濃加茂市周辺をフィールドとした社会科系、理科系の研究課題の参考例として、5 つの分野に関係した資料などを紹介しました。

・5 つの分野と展示テーマ、資料
Ⅰ（文化財）　みのかもの宝物―大切な文化財―
　●指定文化財の紹介
Ⅱ（歴史）　江戸時代と現代のみのかも―150 年前のまちたんけん―
　●「太郎洞池約定証文」　●「太郎洞池絵図」　●「ジヅキ」　●「モッコ（複製）」
Ⅲ（考古）　みんなは考古学者―歩いてさがそう！ 古代遺跡―
　●遺跡地図、分布調査　　●子どもたちによる考古学研究
Ⅳ（地学）　ビジュアル・ふるさとの地学
　●岩石標本、産出地紹介
Ⅴ（自然）　ゆたかな生命―みのかもの動物・植物―
　●動植物標本、子どもたちによる動植物研究
Ⅵ 研究お助け図書
　会期中には、「森の学習会」という研究相談会を会場内で行い、夏休みの研究の仕方や調べ方などを教えてもらいました。

## ［第１期］展示作品目録

| 番号 | 学校名 | 学年 | 作品名 | 教科 | キーワード |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 太田小学校 児童 | 2 | ぼくのみのかもたんけん | 社会 | 地理 |
| 2 | 太田小学校 児童 | 4 | まわれ！ぼくのこまＰａｒｔⅢ | 理科 | 物理 |
| 3 | 古井小学校 児童 | 1 | だんごむしさん　みいつけた | 理科 | 生物 |
| 4 | 古井小学校 児童 | 4 | 炭のひみつ①② | 社会 | 地理、産業、生活改善 |
| 5 | 古井小学校 児童 | 6 | シャボン玉の研究 5～6 | 理科 | 物理 |
| 6 | 古井小学校 児童 | 6 | この夏見つけた洗たく　　おすすめのかわかしかた①② | 理科 | 物理 |
| 7 | 山之上小学校 児童 | 1 | ちらししらべ | 社会 | 地理、商業 |
| 8 | 山之上小学校 児童 | 5 | ｉｃｅ　こおり | 理科 | 物理 |
| 9 | 蜂屋小学校 児童 | 4 | 最強パワーの紙をさぐれ！ | 理科 | 物理 |
| 10 | 蜂屋小学校 児童 | 5 | 縄文土器と石器作り | 社会 | 歴史 |
| 11 | 蜂屋小学校 児童 | 5 | 안녕하세요　(KOREA) | 社会 | 地理、文化 |
| 12 | 蜂屋小学校 児童 | 6 | 안녕!　한국 | 社会 | 地理、文化 |
| 13 | 加茂野小学校 児童 | 3 | ぼくのヤドカリ　パートⅠ、Ⅱ、Ⅲ①② | 理科 | 生物 |
| 14 | 伊深小学校 児童 | 4 | わたしの家のまわりの葉っぱ①② | 理科 | 生物 |
| 15 | 伊深小学校 児童 | 4 | 薬草調べ | 理科 | 生物 |
| 16 | 三和小学校 児童 | 5 | 昔の人々の食と暮し | 社会 | 歴史、食生活 |
| 17 | 下米田小学校 児童 | 4 | 拾えたよ!!土器 | 社会 | 歴史 |
| 18 | 下米田小学校 児童 | 4 | ぼくの土器コレクション | 社会 | 歴史 |
| 19 | 下米田小学校 児童 | 5 | お茶博士になろう　Ⅰ　Ⅱ | 理科 | 地理、産業 |
| 20 | 山手小学校 児童 | 1 | ぼくのすきな７ひきのかぶとむしと２ひきのくわがたむしのけんきゅう | 理科 | 生物 |
| 21 | 山手小学校 児童 | 1 | たいせつなおばあちゃん　パート 1～3 | 社会 | 福祉、家族 |
| 22 | 山手小学校 児童 | 1 | たんぽぽといっしょ | 理科 | 生物 |
| 23 | 山手小学校 児童 | 2 | 山手わくわくたんけん | 社会 | 地理 |
| 24 | 山手小学校 児童 | 2 | たんぽぽといっしょ　パート２ | 理科 | 生物 |
| 25 | 山手小学校 児童 | 2 | ぼく、カブトムシだいすきⅠ，Ⅱ①② | 理科 | 生物 |
| 26 | 山手小学校 児童 | 3 | こまこま回れ 10 分間 | 理科 | 物理 |
| 27 | 山手小学校 児童 | 3 | 日本一大きくてじょうぶなカブトムシに挑戦<br>～ぼくカブトムシはかせになったよパート３～ | 理科 | 生物 |
| 28 | 山手小学校 児童 | 4 | 日本一大きくてじょうぶなカブトムシに挑戦<br>～ぼくカブトムシはかせになったよパート４～ | 理科 | 生物 |
| 29 | 山手小学校 児童 | 5 | 水はなぜ大切にしなくてはいけないのかＮｏ．3～4 | 社会 | 自然保護、環境汚染 |
| 30 | 山手小学校 児童 | 6 | 土器の研究 | 社会 | 歴史 |
| 31 | 西中学校 生徒 | 中１ | 滑り止めの謎 | 理科 | 物理 |
| 32 | 西中学校 生徒 | 中２ | オキシドールロケットの謎に迫る！！　パートⅡ | 理科 | 物理 |
| 33 | 東中学校 生徒 | 中２ | 歴史研究（太平洋研究）１億回のラヴコール　一人の友に今受け継いで | 社会 | 歴史、戦争 |
| 34 | 双葉中学校 生徒 | 中３ | 京都散策（京都の絵） | 社会 | 歴史、文化遺産 |
| 35 | 美濃加茂中学校 生徒 | 中１ | 風力発電の検証　～一番よく発電する形や大きさはどんなものか～ | 理科 | 物理 |
| 36 | 美濃加茂中学校 生徒 | 中２ | 位置エネルギーと運動エネルギーの実験 | 理科 | 物理 |

◆［第 2 期］8 月 12 日（火）～8 月 24 日（日）「あつめる・つくる」→「みせる」

「つながる」をキーワードに、文化の森の中でお気に入りの場所を写真に「きりとって」作品にしました。また、会期中の 8 月 12 日の展示完了後から 17 日まで作品作りをし、できた作品をつぎつぎ展示室に展示し、会期中にも増えていく、参加型の展示を行いました。

展覧会初日の 8 月 12 日には「フォレスタくらぶ」で作った作品をメンバーが展示しました。学芸員の仕事の一部を体験しました。

［第 2 期］展示作品目録（一部）

フォレスタくらぶのメンバー、ふらっとみゅーじあむでの参加者、一般参加者あわせて、のべ 282 点の作品が並びました。以下に会期中に展示室内に配置してあったリストの一部をご紹介します。

| 作品番号 | アーティスト（撮影者） | 作品タイトル | 撮影場所 | 撮影日 |
|---|---|---|---|---|
| 37 | みさき | つながる写真 | 企画展示室 | 813 |
| 38 | みさき | 赤いテープッチョ | エントランス | 813 |
| 39 | まどか | 健ちゃんのクロックス | 芝生広場 | 813 |
| 40 | まどか | 森のタワー | タワー | 813 |
| 41 | まどか | 健ちゃんの石 | 芝生広場 | 813 |
| 42 | ななみ | 顔だけうごくさい | 常設展示室 | 813 |
| 43 | ななみ | じんじゃのお花 | 加茂神社 | 813 |
| 44 | ななみ | 文化の森のてんぼうだい | 芝生広場 | 813 |
| 45 | めい | 雨わかれ | 芝生広場 | 813 |
| 46 | めい | シッシッシｂｙ獅子頭 | 常設展示室 | 813 |
| 47 | めい | 写真をとった写真 | 美術工芸 | 813 |
| 48 | みく | 芝生の彫刻 | 芝生広場 | 813 |

# 渡辺英司展　図鑑庭園　The Garden of the Name

会　　期　2008 年 9 月 20 日（土）～10 月 26 日（日）〈31 日間〉
会　　場　企画展示室、美術工芸展示室
観 覧 料　無　料
入場者数　3,995 人

内　　容

美濃加茂市民ミュージアムでは「芸術と自然」をテーマにとして、市民が作家と交流しながら現代美術に触れる企画を開催してきました。渡辺英司は近年、現代社会に流通する商業製品などを素材とした作品制作に取り組んでいます。日々の暮らしにありふれたものに手を加えることで既成のイメージを裏切る作家の表現はウィットに富み、創り出される空間は明るく穏やかな美しさに満たされています。

展覧会場を大きく占めるのは、植物や蝶などの図鑑から写真部分を切り抜き、空間に飛び出させるインスタレーションです。作家はこの手法による作品を「名称の庭」と呼び、長く制作のテーマのひとつとしてきました。今回は、1992 年に初めて「名称の庭」を作りだしてから 2007 年までの間に作り続けて数を増やしてきたものに、この展覧会のために切り抜いたものをあわせて展示しました。

関連行事

■渡辺英司ワークショップ①
9 月 14 日（日）13:00～15:00　エントランスホール　参加無料　参加者：34 人
内　容／図鑑や雑誌などのイメージや写真を切り抜いて、ミュージアムのエントランスホールに展示。

■渡辺英司ワークショップ②
10 月 4 日（土）13:00～15:00　エントランスホール　参加無料　参加者：30 人
内　容／図鑑や雑誌のほかに家族やペットを写したものなど切り抜きたい写真などを切り抜いて、エントランスホールの壁面や床面に展示。
＊ワークショップ①②で作成した作品は 10 月 26 日（日）まで展示。

■アーティストトーク
10 月 4 日（土）15:00～16:00　美術工芸展示室　参加無料　参加者 42 人

刊行物

■『渡辺英司展　図鑑庭園　The Garden of the Name』　A5 判　16 頁　価格 100 円

作品目録

| 作　品　名 | 材質 | サイズ（縦×横 cm） | 所蔵 |
|---|---|---|---|
| 名称の庭　みのかも文化の森 | 植物図鑑、きのこ図鑑 | サイズ可変 | KENJI TAKI GALLERY |
| インスタレーション　1992－2008 | | | 作家蔵 |
| 蝶瞰図　みのかも文化の森 | 蝶図鑑 | サイズ可変 | 作家蔵 |
| インスタレーション　2007－2008 | | | |
| 蝶瞰図（ガラスケース）2007－2008 | 蝶図鑑 | 135.0×155.0×0.60 | 作家蔵 |
| 蝶のトレース　2008 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙（6 点） | 29.8×24.0 | 作家蔵 |

# 蜂屋柿　その歴史と人々　展

会　　期　2008 年 12 月 13 日（土）～2009 年 2 月 1 日（日）〈35 日間〉
会　　場　企画展示室、美術工芸展示室
展示資料　58 件
観 覧 料　一般 200 円（100 円）高校生以下　無料
入場者数　1,053 人

内　　容

堂上蜂屋柿は江戸時代、尾張藩献上品としてその地位を確立しました。美濃を代表する特産品である蜂屋柿を藩へ献上することにより、蜂屋村は諸役免除の特権を得、その生産に関しては「御柿庄屋」が置かれるなど万全の体制が整えられました。しかしながら諸役免除も藩の事情により必ずしも安泰というわけではなく、村は様々な手法、論理でそれを保持しようとしました。本展では、江戸時代以前の柿の歴史にも触れつつ、蜂屋柿に関わる人々と地域の歴史を様々な側面から紹介しました。

関連行事

■ミュージアムフォーラム「献上と美濃柿」
1 月 25 日（日）14:00～15:30　緑のホール　参加無料　参加者：64 人
講師：松田之利氏（岐阜市立女子短期大学学長）
■「蜂屋柿の里」を歩く
12 月 13 日（土）14:00～15:30　瑞林寺ほか（美濃加茂市蜂屋町）　参加無料　参加者：18 人
■「堂上蜂屋柿茶会」
1 月 17 日（土）14:00～15:30　生活体験館　参加料 700 円　参加者：43 人
協力：蜂屋茶道同好会
■四季を食べる講座「干し柿料理」
1 月 18 日（日）10:00～13:00　生活体験館　参加料 200 円　参加者：19 人
■ミュージアムトーク（展示解説）
12 月 14 日（日）14:00～15:00　参加者： 9 人
12 月 18 日（木）14:00～15:00　参加者：13 人

刊 行 物

■『蜂屋柿　その歴史と人々展』　A4 判　28 頁　価格 500 円

## 資料目録

| 番号 | 種別 | 資　料　名 | 点数 | 年代 | 寸法（cm） | 所蔵者・管理者・写真提供者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 写真 | 滞水した南池 SG9801（飛鳥京跡苑池遺構） | 1 | 7 世紀中葉～第 4 四半期 | | 奈良県立橿原考古学研究所 |
| 2 | 写真 | カキ種子（曽根城跡） | 1 | 15～16 世紀 | | 大垣市教育委員会 |
| 3 | 写真 | 堀と考えられる溝（曽根城跡） | 1 | 15～16 世紀 | | 大垣市教育委員会 |
| 4 | 写真 | 曲物の残る井戸（柿田遺跡） | 1 | 11～13 世紀 | | （財）岐阜県教育文化財団文化財保護センター |
| 5 | 写真 | 「春日権現霊験記」（模本） | 1 | ［原資料・延慶 2］（1309） | | 東京国立博物館 |
| 6 | 写真 | 「慕帰絵詞」 | 1 | 観応 2 年（1351） | | 本願寺 |
| 7 | | 広益国産考（渋を搾る図） | 1 | 安政 6 年（1859） | 23×15 | 個人蔵 |
| 8 | 写真 | 漆器椀（曽根八千町遺跡） | 1 | 12 世紀後半 | | 大垣市教育委員会 |
| 9 | 写真 | 塗りが重ねられた漆器断面（曽根八千町遺跡） | 1 | 12 世紀後半 | | 大垣市教育委員会 |
| 10 | 写真 | 漆椀（曽根城跡） | 1 | 15～16 世紀 | | 大垣市教育委員会 |
| 11 | | 明衡消息（明衡往来） | 1 | 寛永 19 年（1642） | 28×17 | 館蔵 |
| 12 | 写真 | 復元された天正 2 年の信長料理 | 1 | | | 岐阜市歴史博物館 |
| 13 | | 蜂屋村御柿差上由緒書 | 1 | 延享 2 年（1745） | 24×17 | 瑞林寺 |
| 14 | | 大久保長安蜂屋柿献上申付状 | 1 | 慶長 15 年（1610） | 35×50 | 瑞林寺 |
| 15 | 写真 | 「禮物軌式　春」（枝柿その 1） | 1 | 文化 13 年（1816） | | 徳川林政史研究所 |
| 16 | 写真 | 「禮物軌式　春」（枝柿その 2） | 1 | 文化 13 年（1816） | | 徳川林政史研究所 |
| 17 | 写真 | 「禮物軌式　春」（枝柿その 3） | 1 | 文化 13 年（1816） | | 徳川林政史研究所 |
| 18 | 写真 | 「禮物軌式　春」（枝柿その 4） | 1 | 文化 13 年（1816） | | 徳川林政史研究所 |
| 19 | 写真 | 「禮物軌式　夏」（美濃柿） | 1 | 文化 13 年（1816） | | 徳川林政史研究所 |
| 20 | | 献上物音信品取扱留帳（定例御音信之部） | 1 | 江戸時代 | 28×19 | 岐阜市歴史博物館 |
| 21 | | 献上枝柿の図 | 1 | 慶応元年（1865） | 13×35 | 日江井惇氏 |
| 22 | | 美濃柿献上受取書 | 1 | 文久 3 年（1863） | 15×23 | 日江井惇氏 |
| 23 | | 「尾州御用」 | 1 | 江戸時代 | 86×33 | 日江井惇氏 |
| 24 | | 蜂屋柿取扱申渡状（「申渡覚」） | 1 | 江戸時代 | 31×304 | 日江井惇氏 |
| 25 | 写真 | 献上留 | 1 | 宝永 2～文久 2 年（1705～1862） | | （財）犬山城白帝文庫 |
| 26 | 写真 | 安政武鑑 | 1 | 安政 2 年（1855） | | （財）犬山城白帝文庫 |
| 27 | 写真 | 徳川秀忠御内書 | 1 | 江戸時代 | | （財）犬山城白帝文庫 |
| 28 | 写真 | 水戸宰相光圀書状 | 1 | 江戸時代 | | （財）犬山城白帝文庫 |
| 29 | 写真 | 江戸城本丸図 | 1 | 宝永 2 年（1705） | | （財）犬山城白帝文庫 |
| 30 | | 日本山海名物図会　（美濃釣柿） | 5 | 寛政 11 年（1799） | 27×18 | 個人蔵 |
| 31 | | 蜂屋柿売渡ニ付触書写 | 1 | 延宝 6 年（1678） | 28×21 | 御嵩町井尻区 |
| 32 | | 蜂屋柿苗木成育状況届書写 | 1 | 延宝 8 年（1680） | 28×21 | 御嵩町井尻区 |
| 33 | | 蜂屋柿仕立入用見積書 | 1 | 正徳元年（1711） | 15×234 | 瑞林寺 |
| 34 | | 蜂屋柿上納由緒口上書 | 1 | 元禄 7 年（1694） | 29×139 | 瑞林寺 |
| 35 | | 蜂屋村助人馬免許願 | 1 | 宝永 7 年（1710） | 31×44 | 瑞林寺 |
| 36 | | 太田宿隣村書上状 | 1 | 宝永 7 年（1710） | 32×115 | 瑞林寺 |
| 37 | | 蜂屋村諸役免許証文 | 1 | 正徳元年（1711） | 18×61 | 瑞林寺 |
| 38 | | 蜂屋村堤銀免除嘆願状 | 1 | 享保 8 年（1723） | 31×43 | 瑞林寺 |
| 39 | | 蜂屋村堤銀御免証文 | 1 | 享保 8 年（1723） | 16×43 | 瑞林寺 |
| 40 | | 蜂屋柿定値段引下げ断り状並びに蜂屋柿仕立入用見積 | 1 | 延享 2 年（1745） | 24×17 | 瑞林寺 |
| 41 | | 諸国産物見立相撲番附 | 1 | 江戸後期 | 44×32 | 館蔵 |
| 42 | | 大日本物産双録 | 1 | 明治 11 年（1878） | 61×73 | 館蔵 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | | 岐蘇路記 | 1 | 正徳 3 年（1713） | 18×12 | 館蔵 |
| 44 | | 岐蘇路安見絵図 | 1 | 宝暦 6 年（1756） | 11×16 | 館蔵 |
| 45 | | 美濃国地球全図 | 1 | 享和 2 年（1802） | 79×74 | 岐阜市歴史博物館 |
| 46 | | 木曽街道続膝栗毛　五編上巻 | 1 | 文化 11 年（1814） | 18×12 | 館蔵 |
| 47 | | 方言修行金草鞋　第五編　木曽路巻 | 1 | 文化 10 年（1813） | 18×12 | 岐阜市歴史博物館 |
| 48 | | 諸国道中袖鏡 | 1 | 天保元年（1830） | 11×17 | 館蔵 |
| 49 | | 木曽路名所図会 | 7 | 文化元年（1804） | 27×18 | 館蔵 |
| 50 | 写真 | 瑞林寺　徳川家位牌の厨子 | 1 | 江戸時代 | | 瑞林寺 |
| 51 | 写真 | 瑞雲寺文書 | 1 | 慶長 15 年（1610） | | 瑞雲寺 |
| 52 | 写真 | 瑞雲寺にある柿の木 | 1 | | | 瑞雲寺 |
| 53 | 写真 | 徳川家の家紋のある木札 | 1 | 不明 | | 瑞雲寺 |
| 54 | | 瑞林寺境内地図 | 1 | 安永 4 年（1775） | 93×87 | 瑞林寺 |
| 55 | | 加茂郡蜂屋四郷村絵図 | 1 | 寛政 12 年（1800） | 88×93 | 岸俊明氏 |
| 56 | | 円空和歌 | 1 | 不明 | 22×12 | 高賀神社 |
| 57 | | 蜂屋柿レッテル 1 | 1 | 明治末～戦前 | 19×15 | 館蔵 |
| 58 | | 蜂屋柿レッテル 2 | 1 | ～戦中 | 15×12 | 館蔵 |
| 59 | | 蜂屋柿レッテル 3 | 1 | 現在 | 20×15 | 館蔵 |
| 60 | 写真 | 両香堂　柿羊羹レッテル | 1 | 明治時代 | 原資料（24×12） | 両香堂本舗 |
| 61 | | 蜂屋柿由来略書 | 1 | 大正 7～大正 12 年 | 27×38 | 館蔵 |
| 62 | | 蜂屋柿由来略書 | 1 | 現在 | 21×28 | 館蔵 |
| 63 | | ハチヤガキカンフェクトシール | 3 | 不明 | 8×9 | 館蔵 |
| 64 | | 本草綱目 | 1 | 江戸中期 | 27×18 | 館蔵 |
| 65 | | 大和本草 | 1 | 宝永 6 年（1709） | 23×15 | 個人蔵 |
| 66 | | 和漢三才図会　（第七〇巻、八七巻） | 2 | 正徳 3 年（1713） | 27×18 | 個人蔵 |
| 67 | | 再板農業全書 | 1 | 天明 7 年（1787） | 23×15 | 個人蔵 |
| 68 | | 日本産物志（美濃部） | 3 | 明治 9 年（1876） | 27×18 | 個人蔵 |
| 69 | | 有用植物図説 | 1 | 明治 24 年（1891） | 27×18 | 個人蔵 |
| 70 | | 広益本草大成　（和語本草綱目） | 1 | 元禄 11 年（1698） | 27×18 | 館蔵 |
| 71 | | パリ万国博覧会銀牌賞状額 | 1 | 明治 33 年（1900） | 71×82 | 美濃輪忠興氏 |
| 72 | | パリ万国博覧会銀牌メダル額 | 1 | 明治 33 年（1900） | 40×40 | 美濃輪忠興氏 |
| 73 | | 蜂屋柿　版木 | 1 | 不明 | 20×18 | 館蔵 |
| 74 | | 蜂屋柿　版木 | 1 | 不明 | 18×16 | 坂井文次氏 |
| 75 | | 蜂屋柿　ゴム印 | 1 | 不明 | 13×8 | 坂井文次氏 |
| 76 | | 蜂屋柿製造及び出荷関係資料 | 1 | 明治～昭和 | | 館蔵 |
| 77 | | 村瀬俊雄氏関係資料 | 10 | 昭和～ | | 村瀬琴子氏 |
| 78 | | 蜂屋柿振興会発足資料 | 1 | 昭和 53 年～ | | 村瀬琴子氏 |
| 79 | | 蜂屋柿包装紙 | 1 | 現在 | 55×79 | 館蔵 |
| 80 | | 蜂屋柿包装紙原画 | 1 | 不明 | 27×24 | 村瀬琴子氏 |
| 81 | | 「味の箱舟」認定書 | 1 | 平成 19 年（2007） | 30×21 | 美濃加茂市 |
| 82 | | 瑞林寺文書　御證文箱 | 1 | 江戸時代 | 39×27×14 | 瑞林寺 |
| 83 | | 日江井家文書（襖下張り文書） | 1 | 幕末～明治 | | 日江井惇氏 |

美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業

# 逍遙と『早稲田文學』展

会　　期　2009 年 2 月 7 日（土）～3 月 15 日（日）〈31 日間〉
会　　場　企画展示室
展示資料　101 件
観 覧 料　無　料
入場者数　1,282 人

内　　容

坪内逍遙(1859～1935)は、学者として理論を確立するだけでなく、自ら多くの小説を執筆しました。逍遙は写実的な世界を小説に取り入れ、その観察力で、ありのままを「写生」しました。言文一致体により、きめ細かな表現力を文学に導き出そうとしたものです。

独自の世界で明治の文壇に新風を吹き込んだ逍遙は、一躍文壇の注目を浴びました。小説『一読三歎当世書生気質』、理論書『小説神髄』は代表作です。明治 23 年（1890)、「和漢洋三文学の調和」として早稲田の文学科を新設し、文学の発展に寄与しました。翌年、逍遙は文芸雑誌『早稲田文學』創刊し、近代文学の礎を築きました。

今回の展覧会では、逍遙が創設した早稲田大学坪内博士記念演劇博物館が所蔵する文学的価値の高い資料をはじめ、当時の文学動向を知る文芸雑誌ならびに逍遙直筆の原稿や日記などを展示紹介しました。

また、美濃加茂市民ミュージアムと早稲田大学が文化交流事業の一環として、今回の展覧会を巡回展として初めて共催しました。

巡 回 先

3 月 21 日（土）～4 月 29 日（祝）　　早稲田大学大隈記念タワー10 階『125 記念展示室』

関連行事

■ミュージアムフォーラム　逍遙と『早稲田文学』が目指したもの
2 月 22 日（日）14:00～15:30　研修室　参加無料　参加者：45 人
講師：早稲田大学文学学術院教授 中島国彦氏
■ミュージアムトーク
2 月 7 日（土）11:00～12:00（参加者　7 人)、14:00～15:00（参加者 8 人）
2 月 28 日（土）14:00～15:00（参加者 11 人）

資料目録

| 番号 | 資　料　名 | 員数 | 年代 | 著作者等 | 所蔵・管理者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 逍遙が愛用した小物類 | 1 式 | | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 2 | 『万国航海 西洋道中膝栗毛』　2 編下 | 1 冊 | 1871 | 仮名垣魯文 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 3 | 『牛店雑談 安愚楽鍋』　第 1 巻 | 1 冊 | 1871 | 仮名垣魯文 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 4 | 『柳橋新誌』　2 編 | 1 冊 | 1874 | 成島柳北 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 5 | 「回憶漫談」 | 1 冊 | 1881 | 坪内逍遙 | 早稲田大学図書館 |
| 6 | 『早稲田文學』　第 2 次第 233 号 | 1 冊 | 1881 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 7 | 『春風情話』　（覆刻） | 1 冊 | 1978 | 中島精一 | 演劇博物館 |
| 8 | 『泰西活劇 春窓綺話』 | 2 冊 | 1884 | 服部誠一 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 9 | 『該撒奇談 自由太刀餘波鋭鋒』 | 1 冊 | 1884 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 10 | 『明治協会雑誌』 | 1 冊 | 1883 | 坪内逍遙他 | 早稲田大学図書館 |
| 11 | 『中央学術雑誌』 | 1 冊 | 1885 | 坪内逍遙他 | 早稲田大学図書館 |
| 12 | 『小説神髄』 | 2 冊 | 1886 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 13 | 『怪談 牡丹燈籠』 | 1 冊 | 1885 | 三遊亭円朝 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 14 | 『新編 浮雲』　（覆刻） | 2 冊 | 1984 | 二葉亭四迷 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 15 | 『一読三嘆 当世書生気質』　（上下巻） | 2 冊 | 1886 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市中央図書館 |
| 16 | 『キング』　第 6 巻第 10 号 | 1 冊 | 1930 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 17 | 『内地雑居 未来之夢』 | 10 冊 | 1886 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 18 | 『諷誡 京わらんべ』 | 1 冊 | 1886 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 19 | 『新磨 妹と背鏡』 | 1 冊 | 1886 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 20 | 『逍遙選集』　別冊第 1 巻 | 1 冊 | 1927 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 21 | 『国民之友』　第 39 号 | 1 冊 | 1889 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 22 | 「幾むかし」 | 1 冊 | 1919 | 坪内逍遙 | 演劇博物館 |
| 23 | 『柿の蔕』 | 1 冊 | 1933 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 24 | 『英文學史』　（再版） | 3 冊 | 1902 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 25 | 『文藝と教育』 | 1 冊 | 1902 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市中央図書館 |
| 26 | 逍遙の日記 | 1 冊 | 1890 | 坪内逍遙 | 演劇博物館 |
| 27 | 『實業之日本』　第 17 巻第 15 号 | 1 冊 | 1914 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 28 | 『文藝瑣談』 | 1 冊 | 1907 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 29 | 『倫理と文學』 | 1 冊 | 1908 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 30 | 「葛の葉」（後に「延葛集」） | 1 式 | 1890 | | 演劇博物館 |
| 31 | 『小羊漫言』 | 1 冊 | 1893 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 32 | 『近松之研究』 | 1 冊 | 1900 | 坪内逍遙、綱島梁川 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 33 | 『逍遙選集』　第 6 巻 | 1 冊 | 1926 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 34 | 『早稲田文學』　第 1 次第 1 期第 3 号 | 1 冊 | 1891 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 35 | 『早稲田文學』　第 1 次第 1 期第 72 号 | 1 冊 | 1894 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 36 | 『早稲田文學』　第 1 次第 1 期第 75 号 | 1 冊 | 1894 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 37 | 『早稲田文學』　第 1 次第 1 期第 76 号 | 1 冊 | 1894 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 38 | 『早稲田文學』　第 1 次第 2 期第 1 号～20 号 | 17 冊 | 1896 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 39 | 『早稲田文學』　第 1 次第 3 期第 7 年第 4 号 | 1 冊 | 1898 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 40 | 『しがらみ草紙』　第 27 号 | 1 冊 | 1891 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 41 | 『早稲田文學』　第 1 次第 1 期第 7 号 | 1 冊 | 1892 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 42 | 『文學その折々』 | 1 冊 | 1896 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 43 | 『春廼家漫筆』 | 1 冊 | 1891 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 44 | 「早稲田文集」 | 1 冊 | 1893 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 45 | 『青年文学』　第 13 号（覆刻） | 1 冊 | 1975 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 46 | 『新小説』臨時増刊　第 27 巻第 9 号（再版） | 1 冊 | 1922 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 47 | 『マクベス』 | 1 冊 | 1913 | 森鷗外 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 48 | 文化人切手（逍遙） | 1 冊 | 1950 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 49 | 文化人切手（鷗外） | 1 冊 | 1951 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 50 | 『早稲田學報』 | 1 冊 | 1897 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 51 | 『早稲田文學』　第 2 次第 2 号 | 1 冊 | 1906 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 52 | 『早稲田文學』　第 2 次第 125 号 | 1 冊 | 1916 | | 美濃加茂市民ミュージアム |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 53 | 『早稲田文學』　第 2 次第 157 号 | 1 冊 | 1918 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 54 | 『早稲田文學』　第 2 次第 174 号 | 1 冊 | 1920 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 55 | 『早稲田文學』　第 2 次第 263 号 | 1 冊 | 1927 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 56 | 『藝術殿』 | 1 冊 | 1931 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 57 | 『早稲田文學』　第 3 次創刊号 | 1 冊 | 1934 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 58 | 『我楽多文庫』　（覆刻） | 1 式 | 1927 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 59 | 『國民之友』　第 8 巻第 115 号 | 1 冊 | 1891 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 60 | 『日本人』　第 11 号 | 1 冊 | 1888 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 61 | 『青年文學』　（覆刻） | 1 冊 | 1975 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 62 | 『反省雑誌』　第 13 年第 2 号 | 1 冊 | 1898 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 63 | 『文學界』　第 48 号 | 1 冊 | 1896 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 64 | 『帝國文學』　第 2 号 | 1 冊 | 1895 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 65 | 『文庫』　第 15 巻第 5 号 | 1 冊 | 1900 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 66 | 『太陽』　創刊号 | 1 冊 | 1895 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 67 | 『文藝倶樂部』　第 1 巻第 5 篇 | 1 冊 | 1895 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 68 | 『ホトトギス』　第 11 巻第 7 号 | 1 冊 | 1908 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 69 | 『中央公論』　第 23 巻 10 号 | 1 冊 | 1908 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 70 | 『明星』　第 2 次第 2 巻第 1 号 | 1 冊 | 1922 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 71 | 『文章世界』　第 1 巻第 4 号 | 1 冊 | 1906 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 72 | 『新思潮』　第 1 次第 4 号 | 1 冊 | 1908 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 73 | 『アララギ』　第 14 巻第 10 号 | 1 冊 | 1921 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 74 | 『スバル』　第 5 巻第 1 号 | 1 冊 | 1913 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 75 | 『三田文學』　第 2 巻第 2 号 | 1 冊 | 1911 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 76 | 『白樺』　第 4 巻第 3 号 | 1 冊 | 1913 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 77 | 『朱欒』　第 2 巻第 12 号 | 1 冊 | 1912 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 78 | 『青鞜』　第 6 巻第 1 号 | 1 冊 | 1916 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 79 | 『赤い鳥』　第 5 号第 6 巻 | 1 冊 | 1920 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 80 | 『改造』　第 5 巻 5 号 | 1 冊 | 1923 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 81 | 『文藝春秋』　第 1 巻第 2 号 | 1 冊 | 1923 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 82 | 『文藝戰線』　第 1 巻第 2 号 | 1 冊 | 1924 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 83 | 『文藝時代』　第 2 巻第 6 号 | 1 冊 | 1925 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 84 | 『キング』　第 6 巻第 7 号 | 1 冊 | 1930 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 85 | 『文藝市場』　創刊号 | 1 冊 | 1925 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 86 | 『戦旗』　第 2 巻第 5 号 | 1 冊 | 1929 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 87 | 『詩と詩論』　創刊号 | 1 冊 | 1928 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 88 | 『四季』　第 21 号 | 1 冊 | 1936 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 89 | 『中央公論』　第 31 巻第 10 号 | 1 冊 | 1916 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 90 | 逍遙の日記　（複製） | 1 冊 | 1916 | 坪内逍遙 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 91 | 『現代日本文學全集』 | 20 冊 | 1926－1931 | 坪内逍遙他 | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 92 | 『早稲田文學』　第 4 次第 16 巻第 5 号 | 1 冊 | 1951 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 93 | 『早稲田文學』　第 5 次第 18 巻第 2 号 | 1 冊 | 1952 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 94 | 『早稲田文学』　第 6 次第 20 巻第 1 号 | 1 冊 | 1959 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 95 | 『早稲田文学』　第 6 次第 20 巻第 5 号 | 1 冊 | 1959 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 96 | 『早稲田文学』　第 7 次第 1 巻第 1 号 | 1 冊 | 1969 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 97 | 『早稲田文学』　第 8 次復刊第 1 号 | 1 冊 | 1976 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 98 | 『早稲田文学』　第 9 次第 25 巻第 3 号 | 1 冊 | 2000 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 99 | 『早稲田文学』　第 10 次 0 号 | 1 冊 | 2007 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 100 | 『早稲田文学』　第 10 次創刊号 | 1 冊 | 2007 | | 美濃加茂市民ミュージアム |
| 101 | 『早稲田文学』　フリーペーパー版 vol.15 | 1 冊 | 2007 | | 美濃加茂市民ミュージアム |

# 星野道夫展「星のような物語」―学校向け写真展―

会　　期　2009 年 2 月 14 日（土）～3 月 1 日（日）〈13 日間〉
会　　場　美術工芸展示室
展示作品　29 点　　展示資料　1 件
観 覧 料　無　料

内　　容

アラスカに魅せられ、自然と命を見つめ続けた写真家 星野道夫（1952～1996）。道なき原野を旅しながら、極地の自然、動物たちの営み、人々の暮らしを撮り続けました。平成 19 年度に開催した「星野道夫－星のような物語－」展では多くの方から好評を得て、再び関連した展覧会を開催することができました。

星野氏が残した膨大な写真や文章は、これまでに小、中、高校生向けの教科書にも多くとりあげられ、子どもたちにもメッセージを送り続けています。20 年に及ぶ撮影活動の中から、全国の子どもたちに「命のつながり」を感じられるように選定された作品を紹介しました。

作品目録

| 番号 | 作品名 |
|---|---|
| | （星野道夫ポートレート：3 週間分のキャンプ道具） |
| 1 | エスキモーの子ども |
| 2 | グリズリーの親子 |
| 3 | ムースの決闘 |
| 4 | ムースのカップル |
| 5 | カリブーの親子 |
| 6 | カリブーの渡河 |
| 7 | シロフクロウの親子 |
| 8 | ドールシープの親子 |
| 9 | サケとグリズリー |
| 10 | アカリス |
| 11 | ムースの親子 |
| 12 | ツンドラを歩くグリズリーの親子 |
| 13 | 森 |
| 14 | トーテムポールと鹿 |
| 15 | 引き潮の入り江 |
| 16 | サケを獲るグリズリー（マクニール川） |
| 17 | ザトウクジラ |
| 18 | 氷河の崩壊 |
| 19 | セイウチの群れ |
| 20 | タテゴトアザラシの親子 |
| 21 | タテゴトアザラシの赤ちゃん |
| 22 | ホッキョクグマ |
| 23 | ホッキョクグマ親子 1 |
| 24 | ホッキョクグマ親子 2 |
| 25 | カリブー春の季節移動 |
| 26 | ツノメドリ |
| 27 | オーロラ |
| 28 | オーロラとテント |
| 29 | ホッキョクギツネ |

# 収蔵品展

□坂井範一と新制作協会

会　　期　2008 年 4 月 5 日（土）～6 月 8 日（日）〈54 日〉
会　　場　美術工芸展示室
展示作品　12 点
観 覧 料　無　料
内　　容

当館に寄贈された作品を紹介する展覧会として、新制作協会を足場に活躍した美濃加茂市出身の洋画家・坂井範一（1899～1981）を紹介しました。協会への出品作をはじめ、岐阜の風景を描いた作品など、作家の視線を様々に感じられるように展示をしました。

| 番号 | 作品名 | 技法 | 制作年 | サイズ（縦×横、cm） | 出品展覧会 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 裸婦 | 油彩・画布 | 1950 年 | 90.0× 73.3 | 第 14 回新制作派協会展 |
| 2 | 渓流 | 油彩・画布 | 1961 年 | 146.0× 98.0 | 第 25 回新制作協会展 |
| 3 | 色と形の物語 | 油彩・画布 | 1967 年 | 118.0×118.0 | 第 31 回新制作協会展 |
| 4 | 卓上 | 油彩・画布 | 1968 年 | 118.0×118.0 | 第 32 回新制作協会展 |
| 5 | 古い物語 | 油彩・画布 | 1975 年 | 117.0× 81.0 | 第 39 回新制作協会展 |
| 6 | 雨夜の品定 | 油彩・画布 | 1976 年 | 117.0× 81.0 | 第 40 回新制作協会展 |
| 7 | 女性像 | 油彩・画布 | 不明 | 60.0× 50.5 | |
| 8 | 裸婦 | 油彩・画布 | 1950 年頃 | 89.0× 71.0 | |
| 9 | 筍 | 油彩・画布 | 1960 年 | 91.0× 61.0 | |
| 10 | 風景 | 油彩・画布 | 1960～64 年 | 72.7× 60.9 | |
| 11 | 鵜飼 | 油彩・画布 | 1960～64 年 | 72.7× 60.9 | |
| 12 | 長良橋 | 油彩・画布 | 1965～70 年 | 60.2× 72.2 | |

□渡辺浩 展

会　　期　2008 年 10 月 30 日（木）～11 月 3 日（月）〈5 日〉
会　　場　美術工芸展示室
展示作品　8 点　　展示資料　4 点
観 覧 料　無　料
内　　容

渡辺浩（1916～1992）は大正 5 年、加茂郡古井村（現美濃加茂市古井町）に生まれた日本画家です。昭和 40 年頃から飛騨高山の家並みや建物を描き始め、院展で作品発表を重ねました。今回は館蔵品の中から飛騨の風景を描いた大作と、新たに寄贈された小下絵を展示しました。

| 番号 | 作品名 | 技法 | 制作年 | サイズ（縦×横、cm） | 出品展覧会 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 玄関 | 紙本着色 | 1968 年 | 188.0×152.0 | 第 53 回院展 |
| 2 | 居間 | 紙本着色 | 1969 年 | 197.0×162.0 | 第 54 回院展 |
| 3 | 炉 | 紙本着色 | 1972 年 | 185.0×152.0 | 第 57 回院展 |
| 4 | 水屋 | 紙本着色 | 1973 年 | 185.0×168.0 | 第 58 回院展 |
| 5 | 白夢 | 紙本着色 | 1975 年 | 167.0×178.0 | 第 60 回院展 |
| 6 | 屋根裏 | 紙本着色 | 1979 年 | 165.0×184.0 | 第 64 回院展 |
| 7 | 飛騨の里（雀） | 紙本着色 | 1982 年 | 175.0×189.0 | 第 67 回院展 |
| 8 | 飛騨の冬 | 紙本着色 | 1984 年 | 176.0×190.0 | 第 69 回院展 |
| 資 1 | 水屋 | 膠彩、紙 | 1973 年頃 | 43.0×38.1 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 資 2 | 白夢 | 膠彩、紙 | 1975 年頃 | 40.3×31.6 |
| 資 3 | 晨（飛騨の冬） | 膠彩、ペン、紙 | 不明 | 32.7×47.0 |
| 資 4 | 晨（飛騨高山） | 膠彩、ペン、紙 | 不明 | 30.0×31.9 |

□大矢峻嶺展

会　　期　2009 年 3 月 7 日（土）～4 月 26 日（日）〈42 日間〉
会　　場　美術工芸展示室
展示作品　8 点　　展示資料　40 点
観 覧 料　無　料
内　　容

2006 年度、当館では加茂郡伊深村（現美濃加茂市伊深町）出身の日本画家・大矢峻嶺（1892～1967）を紹介するに「花をみる、鳥を描く　大矢峻嶺展」を開催しました。この展覧会を契機に新たに収蔵した様々な資料（大矢峻嶺関係書簡・写真）を、館の収蔵作品とあわせて紹介しました。

| 番号 | 作品名 | 技法 | 制作年 | サイズ（縦×横、cm） | 所蔵者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 美人画 | 絹本着色 | 大正時代末頃 | 166.5×71.5 | 館蔵 |
| 2 | 長春鶏図 | 絹本着色 | 1934 年頃 | 118.8×32.9 | 館蔵 |
| 3 | 群雀の図 | 紙本着色 | 1933～1934 年頃 | 169.0×176.0 | 館蔵 |
| 4 | かきつばた | 絹本着色 | 1935～1939 年頃 | 120.3×36.8 | 館蔵 |
| 5 | 巣ごもり | 紙本着色 | 1935～1939 年頃 | 41.6×42.5 | 館蔵 |
| 6 | 松に鷹 | 絹本着色 | 1940 年代 | 93.0×84.0 | 館蔵 |
| 7 | 雀図 | 絹本着色 | 1955 年頃 | 82.5×72.0 | 伊深小学校 |
| 8 | 四季花鳥図 | 紙本着色 | 1950 年代後半 | 135.3×64.8 | 館蔵 |

□蚕とまゆ展 08

会　　期　2008 年 5 月 24 日（土）～7 月 27 日（日）〈54 日間〉
会　　場　生活体験館（まゆの家）、民具展示館
展示資料　約 50 点
観 覧 料　無　料

□暮ラシカル道具展 09

会　　期　2009 年 1 月 10 日（土）～3 月 22 日（日）〈60 日間〉
会　　場　民具展示館
展示資料　約 30 点
観 覧 料　無　料

# その他の展示活動

□第 53 回美濃加茂市美術展

会　期　2008 年 11 月 20 日（木）～11 月 30 日（日）〈10 日間〉
会　場　企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール、エントランスホール
観覧料　無　料

日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の 5 部門にわたる公募の美術展。第 53 回は 278 点の出品がありました。そのうちの入選作品 252 点を展覧しました。

| 日本画の部 | 洋画の部 | 彫刻・彫塑・工芸の部 | 書の部 | 写真の部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 62 | 35 | 28 | 96 | 252 |

# 講座及び、各種催事

□ミュージアムイベント

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 講師・出演者 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 森のコンサート | 4月19日 | 15:30～16:30 | ジミー・S・宮下氏 | 100 人 |
| 2 | 森の朗読会 | 4月19日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 60 人 |
| 3 | 春・朗読の一日 | 4月27日 | 10:00～17:00 | 市内外の朗読愛好者 | 620 人 |
| 4 | 森の朗読会 | 5月17日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 55 人 |
| 5 | 感じてみよう―中世びとのココロ― | 5月24日 | 13:00～15:00 | 瑞林寺住職 | 13 人 |
| 6 | ちょっと昔の結婚式のごちそう | 5月25日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 21 人 |
| 7 | 森の朗読会 | 6月21日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 56 人 |
| 8 | ビデオ上映会 | 6月22日 | 10:00～13:30 | アートボランティア | 45 人 |
| 9 | 森の朗読会 | 7月19日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 35 人 |
| 10 | 播隆ゆかりの地めぐり | 7月27日 | 9:30～11:30 | 展示ガイドボランティア | 26 人 |
| 11 | 科学の祭典 | 8月2日 | 9:00～15:00 | 市内小中学校理科教諭他 | 400 人 |
| 12 | 森のコンサート「JAZZ」 | 8月3日 | 19:00～20:00 | 粥川なつ紀氏 | 190 人 |
| 13 | 森の朗読会 | 8月16日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 50 人 |
| 14 | オムニバス・シェイクスピアpartⅡ | 8月31日 | 18:30～20:00 | 劇団近代座 | 400 人 |
| 15 | 科学作品展 | 9月5日～7日 | 9:00～17:00 | 市内小中学校理科教諭 | 2,183 人 |
| 16 | 森の音づくり講座 | 9月6日・7日 | 10:30～11:30 | 学習支援ボランティア | 150 人 |
| 17 | 森の朗読会 | 9月20日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 48 人 |
| 18 | 演劇ワークショップ | 9月25日 | 19:00～21:00 | 神里雄大氏 | 24 人 |
| 19 | 早稲田大学学生劇団「生活」 | 9月27日 | 18:30～19:30 | 早稲田大学学生 | 60 人 |
| 20 | 渡辺英司ワークショップ② | 10月4日 | 13:00～15:00 | 渡辺英司氏 | 30 人 |
| 21 | 森の朗読会 | 10月18日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 49 人 |
| 22 | まゆの家まつり | 11月1日～2日 | 10:00～15:00 | 文化の森ボランティア | 650 人 |
| 23 | 出前陶磁講座 | 11月3日 | 14:00～16:00 | 愛知県陶磁資料館副館長 | 14 人 |
| 24 | ビデオ上映会 | 11月29日 | 10:00～15:30 | アートボランティア | 26 人 |
| 25 | 第12回朗読フェスティバル | 11月22日・23日 | 10:00～17:30 | 声のドラマの会 | 540 人 |
| 26 | 美濃加茂市子ども展 | 12月5日～7日 | 9:00～17:00 | 教育センター | 1,974 人 |
| 27 | 「蜂屋柿の里」を歩く | 12月13日 | 14:00～15:30 | 村瀬琴子氏、瑞林寺他 | 18 人 |
| 28 | 森の朗読会 | 12月20日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 50 人 |
| 29 | 森のコンサート「クラシック」 | 12月21日 | 14:00～15:00 | Ring Trio Ensemble | 120 人 |
| 30 | 「堂上蜂屋柿茶会」 | 1月17日 | 14:00～15:30 | 蜂屋茶会同好会 | 43 人 |
| 31 | 森の朗読会 | 1月17日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 38 人 |
| 32 | 森の朗読会 | 2月21日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 65 人 |
| 33 | がんどうち | 2月28日 | 10:00～12:00 | 伝承料理の会 | 12 人 |
| 34 | 森のコンサート「クラシック」 | 3月15日 | 14:00～15:00 | フルリン打 | 100 人 |
| 35 | 森の朗読会 | 3月21日 | 14:00～15:00 | 声のドラマの会 | 73 人 |

□定期講座

| | 名　　称 | 期　日 | 回数 | 時　　間 | 講師 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | はたおり講座<br>（初級） | 5 月 22 日～<br>6 月 19 日 | 5 | 10:00～15:00 | 生活体験<br>ボランティア | 生活体験館 | 24 人 |
| 2 | 伊勢型紙 | 5 月 10 日～<br>8 月 23 日 | 8 | 13:00～16:00 | 今井厚子氏 | 工芸室 | 68 人 |
| 3 | 声のドラマ<br>（11 期生） | 6 月 20 日～<br>11 月 14 日 | 6 | 15:00～17:00<br>19:00～21:00 | 「声のドラマ」<br>の会 | 会議室 | 112 人 |
| 4 | はたおり講座<br>（初級） | 9 月 18 日～<br>10 月 16 日 | 5 | 10:00～15:00 | 生活体験<br>ボランティア | 生活体験館 | 24 人 |
| 5 | シルク<br>スクリーン | 2 月 7 日～<br>28 日 | 4 | 13:00～16:00 | 山田彊一氏 | 工芸室 | 40 人 |

□アートな１日講座

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 講　　師 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | モザイクアート | 4 月 20 日 | 13:00～16:00 | アートボランティア | エントランス | 12 人 |
| 2 | つくってみよう―絵巻― | 5 月 25 日 | 13:00～16:00 | 当館学芸員 | 工芸室 | 10 人 |
| 3 | 陶芸（手びねりまたはろくろ） | 6 月 22 日 | 13:00～16:00 | 後藤秀樹氏 | 陶芸室 | 40 人 |
| 4 | 石膏プリント | 7 月 27 日 | 13:00～16:00 | 当館学芸員 | 工芸室 | 10 人 |
| 5 | グラスエッチング | 8 月 17 日 | 13:00～16:00 | 当館学芸員 | 工芸室 | 12 人 |
| 6 | 渡辺英司ワークショップ① | 9 月 14 日 | 13:00～15:00 | 渡辺英司氏 | エントランス | 34 人 |
| 7 | 陶芸（手びねりまたはろくろ） | 10 月 26 日 | 13:00～16:00 | 後藤秀樹氏 | 陶芸室 | 19 人 |
| 8 | お菓子でつくるクリスマス | 11 月 23 日 | 13:00～16:00 | 平岡久美子氏 | アトリエ | 15 人 |
| 9 | 高畠純さんとクリスマスペーパークラフト | 12 月 7 日 | 13:00～16:00 | 高畠純氏 | エントランス | 43 人 |
| 10 | 大人の彫金 | 1 月 25 日 | 13:00～16:00 | 山田みどり氏 | 陶芸室 | 8 人 |
| 11 | 張り子に絵付 | 2 月 22 日 | 13:00～16:00 | 当館学芸員 | 工芸室 | 11 人 |
| 12 | 陶芸（手びねりまたはろくろ） | 3 月 22 日 | 13:00～16:00 | 後藤秀樹氏 | 陶芸室 | 15 人 |

□四季を食べる講座

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 講　師 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 利休まんじゅうと甘茶 | 4月20日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 14人 |
| 2 | 山菜おこわ | 5月13日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 24人 |
| 3 | 手作り豆腐 | 5月18日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 19人 |
| 4 | 朴葉餅とこもどうふ | 6月3日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 40人 |
| 5 | 梅の漬け方と梅料理 | 6月15日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 24人 |
| 6 | うどん16パイ | 7月1日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 19人 |
| 7 | ミョウガ寿司 | 7月20日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 32人 |
| 8 | 昔のおやつ | 8月5日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 16人 |
| 9 | くさぎ料理 | 8月17日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 14人 |
| 10 | ユワカシとおはぎ | 9月2日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 10人 |
| 11 | 重陽の節句のごちそう | 9月21日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 17人 |
| 12 | さんまご飯 | 10月7日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 14人 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | ごへい餅 | 10月19日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 30人 |
| 14 | へぼご飯 | 11月16日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 15人 |
| 15 | 手作りこんにゃく | 12月2日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 24人 |
| 16 | おせち料理 | 12月21日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 18人 |
| 17 | 干し柿料理 | 1月18日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 19人 |
| 18 | 手作りみそとみそ料理 | 2月3日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 30人 |
| 19 | ひきずり | 2月15日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 12人 |
| 20 | 春の祭のごちそう | 3月3日 | 10:00～13:00 | 伝承料理の会 | 生活体験館 | 16人 |

□くらし体験講座

| | 名　　称 | 期　日 | 時　　間 | 講　　師 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 鯉のぼり立て | 4月20日～5月5日 | | 生活体験ボランティア | 自由観覧 |
| 2 | 春を染める | 4月26日 | 10:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 10人 |
| 3 | お茶摘み体験 | 5月3日 | 10:00～14:00 | 生活体験ボランティア | 25人 |
| 4 | 七夕かざり | 6月21日～7月6日 | | 生活体験ボランティア | 自由観覧 |
| 5 | 真綿づくり | 7月5日 | 13:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 9人 |
| 6 | カイコのふしぎたんけん | 7月25日 | 10:00～12:00 | 生活体験ボランティア | 29人 |
| 7 | 蚊帳つり | 7月19日～8月31日 | | 生活体験ボランティア | 自由観覧 |
| 8 | 夏を染める | 8月2日 | 10:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 10人 |
| 9 | ぞうきんづくり | 8月9日 | 10:00～12:00 | 生活体験ボランティア | 7人 |
| 10 | 秋を染める | 9月27日 | 10:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 8人 |
| 11 | 冬を染める | 12月6日 | 10:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 10人 |
| 12 | 障子はり | 12月13日 | 10:00～12:30 | 生活体験ボランティア | 2人 |
| 13 | 門松飾り | 12月21日～1月10日 | | 生活体験ボランティア | 自由観覧 |
| 14 | 鏡開き | 1月10日 | 10:00～12:00 | 生活体験ボランティア | 33人 |
| 15 | なべしきづくり | 2月7日 | 13:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 5人 |
| 16 | まゆびなづくり | 2月21日 | 13:00～15:00 | 生活体験ボランティア | 35人 |
| 17 | ひなかざり | 2月21日～3月3日 | | 生活体験ボランティア | 自由観覧 |

□自然観察講座

| | 名　　称 | 期　　日 | 回数 | 講　　師 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自然の楽しみ方講座 | 4 月 29 日～1 月 6 日 | 8 | 自然史研究会 | 集合:文化の森 | 延 86 人 |

□夏休み子ども講座

| | 名　　称 | 期　日 | 時　　間 | 講　　師 | 会　　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ナイトサファリ | 7月24日 | 19:00～20:00 | 自然史研究会 | 集合:文化の森 | 28人 |
| 2 | 化石を見つけよう！ | 7月31日 | 10:00～15:00 | 自然史研究会 | 集合:文化の森 | 19人 |
| 3 | 植物標本を作ろう！ | 8月7日 | 9:30～12:00 | 自然史研究会 | 文化の森 | 23人 |
| 4 | 植物標本を作ろう！ | 8月12日 | 9:30～12:00 | 自然史研究会 | 文化の森 | 19人 |
| 5 | 昆虫標本を学ぼう！ | 8月10日 | 13:30～15:30 | 自然史研究会 | 文化の森周辺 | 12人 |

□ミュージアムフォーラム

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 講　師 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文字資料からみる中世びとの生活 | 5月11日 | 13:30～15:30 | 清田善樹氏（岐阜聖徳学園大学教授） | 研修室 | 25人 |
| 2 | 第9回逍遙フォーラム「役の行者」 | 5月18日 | 14:00～16:00 | 実行委員会 | 緑のホール | 80人 |
| 3 | 明治の石版画と半原版画館 | 7月20日 | 14:00～15:30 | 糸魚川淳二氏（半原版画館館長） | 研修室 | 33人 |
| 4 | 献上と美濃柿 | 1月25日 | 14:00～15:30 | 松田之利氏（岐阜市立女子短期大学学長） | 緑のホール | 64人 |
| 5 | 逍遙と『早稲田文学』が目指したもの | 2月22日 | 14:00～15:30 | 中島国彦氏（早稲田大学教授） | 研修室 | 45人 |

□ミュージアムトーク

| | 名　　称 | 期　日 | 時　　間 | 解　　説 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土に残る記憶Ⅵ | 4月27日 | 11:00～12:00<br>14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 15人 |
| 2 | 土に残る記憶Ⅵ | 5月1日 | 11:00～12:00<br>14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 11人 |
| 3 | 北アルプスの山々にふれて | 7月6日 | 14:00～15:00 | 穂苅貞雄氏 | 美術工芸室 | 80人 |
| 4 | 暮らしを彩る明治の「刷り物」展 | 7月13日 | 11:00～12:00<br>14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 5人 |
| 5 | アーティストトーク | 10月4日 | 15:00～16:00 | 渡辺英司氏 | 美術工芸室 | 42人 |
| 6 | 蜂屋柿展 | 12月14日 | 14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 9人 |
| 7 | 蜂屋柿展 | 12月18日 | 14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 13人 |
| 8 | 早稲田文學展 | 2月7日 | 11:00～12:00<br>14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 15人 |
| 9 | 早稲田文學展 | 2月28日 | 14:00～15:00 | 当館学芸員 | 企画展示室 | 11人 |

□ふらっとみゅーじあむ

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 内　　容 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | あたまとゆびさき合体パズル | 7/23 | 14:00～16:00 | 上下左右折り曲げると4つの絵がそろうパズルを作る。 | エントランスホール | 61人 |
| 2 | マイ・マーク | 7/30 | | 色画用紙を切り、貼り付けながら自分のオリジナルのマークを作る。 | | 42人 |
| 3 | ぴーん・くるるーん | 8/6 | | カラービニル針金で、オリジナルの「生き物」を作る。 | | 51人 |
| 4 | きかくてんへGO!<br>つながる　輪？ | 8/13 | 10:00～16:00 | カメラ撮影。ハガキ印刷、展示。『子どもわくわく文化の森展』の一環。 | エントランスホール等 | 25人 |
| 5 | まだらもようが　あっと、アート | 8/20 | 14:00～16:00 | 白画用紙に1.5cmに切ったチラシを貼り付けて、絵を描く。 | エントランスホール | 59人 |

□文化の森たんけんたい

| | 名　　称 | 期　日 | 内　　容 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自己紹介、文化の森見学、課題づくり | 7月25日 | 文化の森バックヤードツアー、計画。 | 工芸室<br>生活体験館<br>情報学習室 | 4人 |
| 2 | たんけん活動 | 8月1日 | 各自の課題に沿ってたんけんを行う。 | | |
| 3 | たんけん活動 | 8月8日 | | | |
| 4 | たんけん活動とまとめ | 8月15日 | たんけん活動のまとめ | | |
| 5 | 発表会 | 8月21日 | まとめ。活動の発表会を開催 | | |

□フォレスタくらぶ

| | 名　　称 | 期日 | 時　間 | 内　　容 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 春色のおだんご | 5/17 | 10:00～<br>12:00 | 季節を感じながらヨモギを摘んで、お団子を作った。 | 生活体験館<br>森 | 14人 |
| 2 | 写真でつながろう1 | 6/28 | | 森の中を撮影。隣の作品と繋がるよう掲示。 | 研修室、森、<br>美術工芸展示室 | 7人 |
| 3 | 写真でつながろう2 | 7/12 | | 学芸員の仕事の講話など。前回と同様の作品作り | 研修室、森<br>企画展示室 | 11人 |
| 4 | しょうようはどんな人？ | 10/11 | | 坪内逍遙の展示解説。人生逍遙すごろくの開催。 | 研修室、常設<br>エントランス | 8人 |
| 5 | 手のひらサイズの宝物 | 11/15 | | 蜂屋柿の歴史の話。干し柿作り。 | 研修室、民具展示館<br>他 | 7人 |
| 6 | アドベントカレンダー作り | 12/6 | 13:30～<br>15:30 | お菓子の入ったカレンダーを作成した。（うち一般参加者2人） | 研修室 | 9人 |
| 7 | 感じてみよう、いのち | 2/28 | 10:00～<br>12:00 | 学芸員の解説。スケッチ等。（星野道夫展） | 研修室<br>企画展示室 | 10人 |

# 学校活用

## 1　学校教育とみのかも文化の森

### (1) 小中学校が博物館を利用する意味

みのかも文化の森/市民ミュージアムは、設立準備段階から市内小中学校の教員で構成する委員会を立ち上げ、学校との連携を重点として進めてきました。すでに平成元年度告示の「小学校学習指導要領　社会」には、「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い」とあり、同じく「中学校学習指導要領　社会」には、現行と同文が記されています。そして平成10年度、さらに現行の学習指導要領では、各学年の指導計画を作成するに当たって社会、理科、図画工作、美術、そして総合的な学習の時間等に、博物館や美術館、郷土資料館等の見学・調査・活用を図ることが、そして23年度から完全実施される新学習指導要領では、「連携協力を図りながら、積極的に利用、活用する」ように示されています。多くの教科（領域）でまた生涯学習の面から、ますます博物館と学校教育の関係が重要になってきました。

これは、「生涯にわたる学びの場」としてミュージアムをとらえ、それを自分の学びへと取り込める人を育てることと重なります。みのかも文化の森／市民ミュージアムには人、自然、文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて調査・研究する学芸員がいます。そして児童生徒にとっては、生涯にわたって学んでいる先輩と言えるボランティアがいます。さらに、その要素を学校と結ぶ学習係がいます。児童生徒がここで具体的に学習したり、人との関わりから学んだりする体験ができるように、組織的に仕組むことによって、学校が意図する学習のねらいを、より効果的に実現させることが可能です。

### (2) みのかも文化の森の学習支援体制と設備の特色

みのかも文化の森にある様々な資料やボランティア、そして専門の学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校がみのかも文化の森を計画的・継続的に利用することが前提となります。教科学習や総合的な学習の時間のように、学校の年間指導計画（カリキュラム）に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。学校の授業と同様に、また「森の学校」でしかできない授業ができるようにと、学校と文化の森とをつなぐ様々な支援体制をつくってきました。

①学校教育活動を具体的に結ぶ文化の森学習係
②教員で構成された文化の森活用委員会
③児童生徒を支援する学習支援ボランティア
④学校と森・施設を結ぶバスの運行
⑤一日過ごせる給食配送設備

## 2　みのかも文化の森における学習の実際

平成20年度の学校活用例の詳細は、『みのかも文化の森　活用実践集・活用の手引き』をご参照ください。

## 3　成果と課題

卒業を前にした今年度の6年生の子どものアンケートからも、美濃加茂市全体の学校にわたり、学びの場として文化の森をとらえていること、文化の森が資料を持ち、それを展示する博物館としてとらえていること、「実物の資料」が学習をより分かりやすくしていると思っていることなど、6年間の子どもの学びの成果を感じることができました。その後、文化の森のことをどのように思っているのか、中学校の職業体験の期間に子どもの声を直に聞くことがありました。「人のかかわりなくして、勤労の場は成り立ちません。そ

のかかわりは自分から動きを作っていかなければならないことに気がつきました。それは苦手な人が多いし、難しいことですが、大変なことに取り組むことは楽しいことであり、おもしろいことだということもわかりました」というのです。自分たちが学んできた「文化の森」を、スタッフという立場から見ることでわかったこととして、「文化の森」とのかかわりの中で、さまざまな人の姿からも学ぶことができる、そして人と人のつながりの大切さに気づけた貴重な体験になっていることは、大きな成果であると考えています。

市内の中学校の活用が課題です。学校規模が大きく、学年全員にわたって同一のプログラムを実践することは難しいこと、また往復に時間がかかることがその理由です。今年度は、市内の中学校3校とも職業体験の場として文化の森を経験しましたが、そのほか総合的な学習の時間において活用の例がありますが、文化の森で2回3回学ぶというような継続した活動は実践されていないのが残念です。今後、さらに、文化の森にある豊かな人・もの・こと・場を学校に伝え、学習財を開発したり、文化の森活用委員会でプランを練ったりして中学生の学習意欲に応えられるような活用を生み出したいと考えています。そして、博学融合の場、生涯教育を支援する場として、みのかも文化の森のリピーターを、すべての年代層に増やしていけたらと考えています。

また、活用が豊かになるにつれて指導者や子どもが安心して文化の森で授業が行えるように、安全面の配慮が重要になってきました。学校とは違い、自然が多く残っている多くの市民が活用する場です。活動中の子どもたちの安全を確保し、緊急時に被害を最小限に食い止める連絡体制を含めた安全に関する環境作りをより心がけていきます。

□年間学校利用者（延人数）

| 学年数 | 学級数 | 児童生徒数 | 児　童　生　徒　数　の　内　訳 |
|---|---|---|---|
| 194 学年 | 317 組 | 8,543 人 | （幼保 431 人・小学校 7,820 人・中学校 292 人） |

□博学連携フォーラム

| | 名　　称 | 期　日 | 時　間 | 内　　容 | 会　場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ～学びを深める－学校、そして休日の博物館～ | 10/3 | 9:00-16:30 | ・公開授業「大地のつくりと変化」<br>・休日の「博学連携」報告<br>・「博学連携」を考える会 | 工芸室<br>常設展示室<br>地層 | 65人 |

# 収集・保存・整理・調査・その他

□資料収集、整理、活用

・寄贈資料

| 名　　称 | 作　　者 | 内容・技法等 | 寄贈者 |
|---|---|---|---|
| 裸婦 | 坂井　範一 | 油彩、キャンバス | 木方　阿里氏 |
| 女性像 | 坂井　範一 | 油彩、キャンバス | 木方　阿里氏 |
| 少女 | 坂井　範一 | 油彩、キャンバス | 木方　阿里氏 |
| 吉井勇の歌 | 座馬　井邨 | 墨書 | 座馬　井邨氏 |
| 布袋 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 中田勝美氏・正美氏 |
| 源氏物語　着彩素描 | 坂井　範一 | 水彩、紙 | 御宿　正司氏 |
| 百壽印 | 坂井　範一 | 木彫、枡 | 御宿　正司氏 |
| キツネ | 坂井　範一 | 木、紙、ひも、テグス | 御宿　正司氏 |
| キツネ | 坂井　範一 | 木、紙、ひも、テグス | 御宿　正司氏 |
| キツネ | 坂井　範一 | 木、紙、ひも、テグス | 御宿　正司氏 |
| 小皿（小物入れ） | 坂井　範一 | 陶（坂井範一デザイン） | 御宿　正司氏 |
| 嘉久雛 | 坂井　範一 | 木、膠彩 | 御宿　正司氏 |
| 観音経 | 岡本　かの子 | 複製 | 森　俊郎氏 |
| 滝 | 岡本　一平 | 絹本淡彩 | 森　俊郎氏 |
| 麦畠雲雀 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 恵比寿（579 番「大黒」と双幅） | 岡本　一平 | 紙本淡彩 | 森　俊郎氏 |
| 大黒（578 番「恵比寿」と双幅） | 岡本　一平 | 紙本淡彩 | 森　俊郎氏 |
| 田園殷賑 | 岡本　一平 | 絹本着色 | 森　俊郎氏 |
| 登鯉 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 筍　蛤 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 初夏の沼 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 菜の花 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 海老 | 岡本　一平 | 紙本墨画淡彩 | 森　俊郎氏 |
| カフヱとモダン | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 縁日 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 十六羅漢図 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 万歳 | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 神仙柳下 | 岡本　一平 | 絹本着色 | 森　俊郎氏 |
| 寒山拾得之図 | 岡本　一平 | 紙本淡彩 | 森　俊郎氏 |
| 兎と亀　協力の図 | 岡本　一平 | 紙本淡彩 | 森　俊郎氏 |
| 再会の悦び | 岡本　一平 | 紙本着色 | 森　俊郎氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |
| 蝶のトレース | 渡辺　英司 | 蝶図鑑、色鉛筆、紙 | 渡辺　英司氏 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 表層の形態 06-08A | 渡邉　太一郎 | 陶土 | 渡邉　太一郎氏 |
| 表層の形態 06-08B | 渡邉　太一郎 | 陶土 | 渡邉　太一郎氏 |
| 晨（飛騨高山）　小下絵 | 渡辺　浩 | 膠彩、ペン、紙 | 渡辺　富有子氏 |
| 水屋　小下絵 | 渡辺　浩 | 膠彩、紙 | 渡辺　富有子氏 |
| 白夢　小下絵 | 渡辺　浩 | 膠彩、紙 | 渡辺　富有子氏 |
| 晨（飛騨の冬）　小下絵 | 渡辺　浩 | 膠彩、ペン、紙 | 渡辺　富有子氏 |

| 名　称 | 員　数 | 寄贈者氏名 | 名　称 | 員　数 | 寄贈者氏名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 五月人形 | 一式 | 宮島　崇好氏 | マルザ | 4 枚 | 大久保　嘉和氏 |
| うどんつくり機 | 1 個 | 後藤　初雄氏 | 練炭 | 1 個 | 大久保　嘉和氏 |
| シマガケ（夏用） | 1 式 | 江口　政男氏 | チュウインガムの箱 | 1 個 | 朝日　力氏 |
| ツマガケ（冬用） | 1 式 | 江口　政男氏 | 版木 | 24 枚 | 朝日　力氏 |
| わらじ | 1 式 | 江口　政男氏 | 防虫剤 | 1 個 | 朝日　力氏 |
| 雪わらじ | 1 式 | 江口　政男氏 | 除隊記念の盃 | 4 個 | 堀部　一男氏 |
| 木型 | 1 式 | 江口　政男氏 | 醤油ビン | 1 個 | 堀部　一男氏 |
| 薬箱 | 1 個 | 今井　貞好氏 | 理容金額一覧 | 3 枚 | 堀部　一男氏 |
| 縄ない機 | 1 個 | 坂井　石根氏 | ヤン坊マー坊人形他 | 全 4 種類 | |
| 徳利 | 2 個 | 小関　銀一氏 | ローソク | 2 個 | |
| 輪島塗膳組 | 一式 | 小関　銀一氏 | 蚊帳 | 1 点 | |
| お茶の瓶 | 1 個 | 赤塚　ふきみ氏 | 茶箱 | 1 箱 | |
| ジュース瓶 | 他 1 個 | 赤塚　ふきみ氏 | 電話機 | 1 台 | |
| 調味料の缶など | 2 個 | 赤塚　ふきみ氏 | 絎け台 | 1 点 | |

・購入資料

養蚕秘録　3 冊　、摺物諸国産物見立相撲番附　1 点、摺物和宮様御参・向供奉役人御旅館附　1 点

尾州濃州木曽図　1 点

・文化の森ホームページの公開状況

| 歴史 | 民俗 | 図書 | 美術 | 歴史写真 | 広報写真 | 植物 | 動物 | 考古 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14,374 | 4,268 | 18,170 | 561 | 1,515 | 512 | 4,557 | 4,573 | 3,018 | 51,548 |

・新規コンテンツの公開

地籍図のコンテンツの作成（54 件）

http://www.forest.minokamo.gifu.jp/data_box/chisekizu/index.cfm

・資料・作品の貸し出し状況

| 歴史 | 民俗 | 図書 | 美術 | 植物 | 動物 | 考古 | 画像 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 56 | 73 |

□資料保存

・燻蒸作業

資料燻蒸は専門業者へ委託。移動燻蒸車による燻蒸作業を 2 回実施（8 月 2 日～4 日、3 月 21 日～23 日）

移動燻蒸車の容量約 82.8 ㎥。薬剤:フッ化スルフリル。

民具展示館・民具収蔵庫の燻蒸

専門業者へ委託して実施（8 月 2 日）。薬剤:シフェノトリン。

・モニタリング調査。

8月2日～16日・3月7日～23日　収蔵庫や展示室等を中心とする館内に粘着トラップを設置。

実施結果:資料に加害するシミ類やチャタテが捕獲されたが、収蔵・展示エリアに大きな影響はなかった。

8月2日　収蔵庫のダスト測定。

実施結果:室内に浮遊する埃の数を測定（0.5μ・0.5μm)。虫やカビの浮遊値は低いものであった。

・資料の修復

大矢峻嶺　額装1点、シミ抜き9点　　渡辺　浩　裏打ち3点　　日本輿地路程全図　裏打ち1点

・複製制作

木曽川川通絵図（名古屋大学図書館所蔵）

□博物館実習

平成20年7月29日（火）～8月2日（土）

| 日程 | 時限 | 内　容　案 | 場　　所 | 内容 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7/29（火） | 1 | オリエンテーション、館内見学 | 館内、外 | 見学 | |
| | 2 | 学芸員と博物館の仕事 | 陶芸室 | 講義 | 学校活用、その他 |
| | 3・4 | 博物館資料の取扱いと整理 | 収蔵庫ほか | 実習 | |
| 7/30（水） | 1・2 | 屋外彫刻の整備 | 前平公園 | 実習 | |
| | 3・4 | 展覧会の企画と運営 | 民具展示館ほか | 実習 | 蚕とまゆ展08撤収作業ほか |
| 7/31（木） | 1･2･3 | 学習活動（体験講座）の運営 | 館外 | 実習 | 「化石」発掘体験講座 |
| | 4 | 地学資料の整理 | 収蔵庫4 | 実習 | 岩石、化石 |
| 8/1（金） | 1・2 | 自然資料の取扱いと整理 | 陶芸室 | 実習 | |
| | 3・4 | 収蔵庫の環境と管理 | 収蔵庫1・2 | 実習 | |
| 8/2（土） | 1・2 | 虫菌害対策 | 別棟収蔵庫ほか | 実習 | 燻蒸作業、IPMへの取り組み |
| | 3 | 博物館と市民参画 | 情報学習室ほか | 見学 | くらし体験講座「夏を染める」 |
| | 4 | 実習レポートの作成 | 陶芸室 | まとめ | |

岐阜聖徳学園大学（3人)、岐阜女子大学（1人)、愛知学院大学（1人)、愛知文教大学（1人)、名古屋学芸大学（1人)、信州大学（1人)

□刊行物

| 図書名 | 価格 | 発行年 | 判型 | 頁数 |
|---|---|---|---|---|
| 暮らしを彩る明治の「刷り物」展<br>―半原版画館コレクションから― | 100円 | 2008年7月 | A4 | 6 |
| 渡辺英司展　図鑑庭園　The Garden of the Name | 100円 | 2008年9月 | A5 | 16 |
| 蜂屋柿　その歴史と人々　展 | 500円 | 2008年12月 | A4 | 28 |
| みのかも文化の森　年報 | ― | 2009年1月 | A4 | 44 |
| 美濃加茂市民ミュージアム研究紀要　第8集 | 500円 | 2009年3月 | A4 | 42 |

□報道関係の掲載・紹介状況

| | 新　　聞 | 雑　　誌　　等 | その他（テレビ、ラジオなど） |
|---|---|---|---|
| 展覧会 | 70件 | 49件 | 15件 |
| 講座 | 33件 | 104件 | 4件 |
| イベント | 37件 | 36件 | 3件 |
| その他 | 0件 | 2件 | 2件 |

# 施設の利用状況

文化の森施設の利用状況

□文化の森利用者数

| 内訳 月 | 常設展 | 企画・特別展 | 学校活用 | 教育相談等 | 貸館 | 講 座 | イベント等 | 情報学習室 | 視察 | 市民活動 | その他 | 合 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 1,515 | 94 | 350 | 235 | 1,797 | 56 | 795 | 18 | 0 | 304 | 516 | 5,680 |
| 5月 | 1,717 | 598 | 740 | 233 | 1,542 | 141 | 174 | 11 | 12 | 315 | 548 | 6,031 |
| 6月 | 1,818 | 87 | 1,115 | 317 | 1,690 | 163 | 101 | 12 | 0 | 321 | 562 | 6,186 |
| 7月 | 2,339 | 377 | 598 | 306 | 2,298 | 342 | 153 | 26 | 0 | 241 | 668 | 7,348 |
| 8月 | 2,324 | 46 | 50 | 271 | 2,130 | 336 | 1,040 | 38 | 0 | 313 | 655 | 7,203 |
| 9月 | 2,755 | 945 | 494 | 314 | 3,255 | 257 | 2,349 | 12 | 26 | 234 | 1,064 | 11,705 |
| 10月 | 2,508 | 3,050 | 1,651 | 286 | 2,243 | 104 | 176 | 12 | 0 | 239 | 1,027 | 11,296 |
| 11月 | 2,547 | 2,348 | 1,253 | 314 | 3,520 | 81 | 1,216 | 16 | 4 | 346 | 1,165 | 12,810 |
| 12月 | 2,016 | 270 | 541 | 267 | 3,017 | 115 | 2,184 | 33 | 0 | 215 | 866 | 9,524 |
| 1月 | 1,359 | 739 | 577 | 277 | 1,772 | 68 | 145 | 16 | 0 | 149 | 510 | 5,612 |
| 2月 | 1,663 | 975 | 1,039 | 340 | 2,279 | 155 | 136 | 10 | 20 | 194 | 681 | 7,492 |
| 3月 | 1,592 | 351 | 135 | 277 | 2,842 | 31 | 173 | 2 | 72 | 182 | 566 | 6,223 |
| 合 計 | 24,153 | 9,880 | 8,543 | 3,437 | 28,385 | 1,849 | 8,642 | 206 | 134 | 3,053 | 8,828 | 97,110 |

□津田左右吉博士記念館利用者数

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 175 | 323 | 682 | 329 | 249 | 217 | 225 | 269 | 295 | 235 | 223 | 302 | 3,524 |

□展示室貸し出し業務

| | 内 容 | 団体 | 期 日 | 会 場 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 作品展示 | プリンツ | 4/17～ 4/20 | 市民ギャラリー | 200人 |
| 2 | 美術連盟展 | 美術連盟 | 6/14～ 6/22 | 市民ギャラリー | 1,000人 |
| 3 | 作品展示 | 加茂高校OB | 6/25～ 6/29 | 市民ギャラリー | 250人 |
| 4 | 作品展示 | 絵歩里サークル | 7/ 1～ 7/6 | 市民ギャラリー | 479人 |
| 5 | 資料展示 | 岐阜県社会教育文化課 | 7/12 | 展示ホール | 120人 |
| 6 | 発明くふう展 | 美濃加茂市商工観光課 | 9/ 3～ 9/ 5 | 展示ホール | 2,039人 |
| 7 | 科学作品・社会科作品展 | 美濃加茂市教育センター | 9/ 5～ 9/ 7 | 市民ギャラリー | 2,183人 |
| 8 | 作品展示 | ラインフォトクラブ | 9/10～ 9/14 | 市民ギャラリー | 300人 |
| 9 | 環境フェア | 美濃加茂市環境課 | 10/31～11/2 | 市民ギャラリー、展示ホール | 2,000人 |
| 10 | 子ども展 | 美濃加茂市教育センター | 12/ 5～12/ 7 | 市民ギャラリー | 1,974人 |
| 11 | 作品展示 | 尚美会 | 2/10～ 2/15 | 展示ホール | 340人 |
| 12 | 作品展示 | 桃筆会 | 3/26～ 3/29 | 市民ギャラリー | 500人 |

# 組織・構成・その他

□職員

美濃加茂市民ミュージアム館長　1名

（兼美濃加茂市教育委員会教育部文化振興課長）

庶務係　3名

学芸係　6名

学習係　4名

□協議会・委員

みのかも文化の森運営協議会　　10名

市民ミュージアム専門委員　　4名

□その他の組織

みのかも文化の森のボランティア

| 名　　称 | 登録数 | 主　な　活　動　内　容 |
|---|---|---|
| 展示ガイドボランティア | 13人 | 展示室で解説に加え、地域の調査・ミニ展示などを行う |
| アートボランティア | 17人 | 展覧会関連企画の実施、講座のサポートなどを行う |
| 生活体験ボランティア | 37人 | 生活体験館で昔の遊びや暮らし体験などを行う。かつての生活の記録なども調査・記録する活動を行う |
| 学習支援ボランティア | 24人 | 学校活用での子どもたちの指導や昔の遊び体験などを行う |
| 伝承料理ボランティア | 48人 | 四季を食べる講座の開催やこの地域の伝統的な食べ物の記録保存などを行う |
| イベントボランティア | 21人 | 文化の森で行うコンサートや演劇などでのサポート |
| 合　　計 | 160人 | |

かるちすとくらぶ

「みのかも かるちすと くらぶ」は、みのかも文化の森と美濃加茂市文化会館共通の友の会です。催しについての情報は、郵送でご自宅までお届けします。

主な特典は、市民ミュージアムの情報誌「ミュージアムニュース」や「文化会館だより」の郵送。市民ミュージアム企画展の観覧料割引や文化会館自主事業の先行予約､入場料割引など。さらに、入会されますと、裏面がスタンプカードの会員証をお渡しし、スタンプは、文化会館自主事業への参加は2ポイント、文化の森・市民ミュージアム有料企画展をご覧になった時1ポイントを押印、団体料金でご覧いただけます。6ポイントたまったら、みのかも文化の森のティールーム「ベリー」のドリンク券をプレゼントします。また、入会時には、ティールーム「ベリー」のドリンク券プレゼント、12月に絵本作家高畠純氏のオリジナルカレンダーもプレゼントします。年会費は、1,500円です。

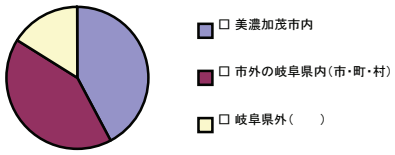
手続き方法はみのかも文化の森、美濃加茂市文化会館にある申込用紙に必要事項をご記入の上、会費をそえてお申し込みいただきます。会員証（裏面がスタンプカード）をお渡しいたします。

# 森のアンケート 集計

この集計は「土に残る記憶Ⅵ」、「暮らしを彩る明治の「刷り物」展」、「渡辺英司展」、「蜂屋柿・その歴史と人々展」、「逍遙と早稲田文學展」の来場者によるアンケート結果を基にまとめたものです。

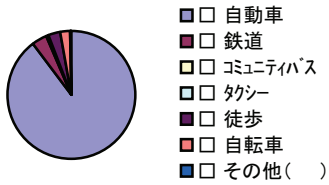
1．どちらからお越しですか？

| | |
|---|---|
| □ 美濃加茂市内 | 155 |
| □ 市外の岐阜県内（市・町・村） | 152 |
| □ 岐阜県外（　　） | 59 |



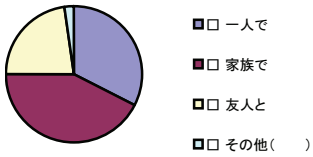

2．どのようにお越しになりましたか？（複数回答）

| | |
|---|---|
| □ 自動車 | 327 |
| □ 鉄道 | 15 |
| □ ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ | 2 |
| □ ﾀｸｼｰ | 0 |
| □ 徒歩 | 11 |
| □ 自転車 | 9 |
| □ その他（　） | 1 |



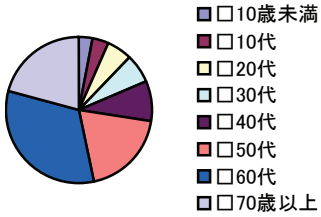

3．どなたとご来館されましたか？

| | |
|---|---|
| □ 一人で | 0 |
| □ 家族で | 117 |
| □ 友人と | 154 |
| □ その他（　　） | 82 |
| | 8 |



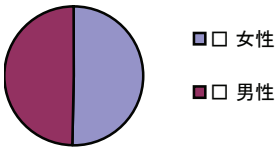

4．あなたの年齢は？

| | |
|---|---|
| □10歳未満 | 11 |
| □10代 | 13 |
| □20代 | 21 |
| □30代 | 23 |
| □40代 | 32 |
| □50代 | 70 |
| □60代 | 119 |
| □70歳以上 | 76 |



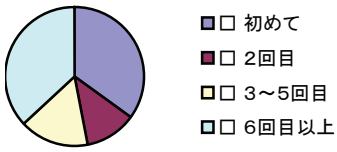

5．あなたの性別は？

| | |
|---|---|
| □ 女性 | 0 |
| □ 男性 | 177 |
| | 176 |




6．何回目のご来館になりますか？

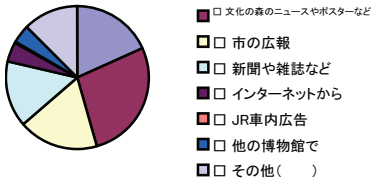
| | |
|---|---|
| □ 初めて | 127 |
| □ 2回目 | 43 |
| □ 3～5回目 | 59 |
| □ 6回目以上 | 134 |




7．展示（企画展）についてお聞かせください。

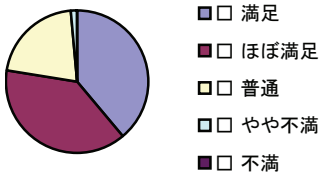
① 企画展を何でお知りになりましたか？（複数回答可）

| | |
|---|---|
| □ 友人などから | 67 |
| □ 文化の森のニュースやポスターなど | 99 |
| □ 市の広報 | 66 |
| □ 新聞や雑誌など | 54 |
| □ インターネットから | 16 |
| □ JR車内広告 | 1 |
| □ 他の博物館で | 15 |
| □ その他（　　） | 46 |



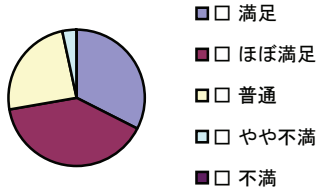

② 展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足いただけましたか？

| | |
|---|---|
| □ 満足 | 139 |
| □ ほぼ満足 | 138 |
| □ 普通 | 76 |
| □ やや不満 | 5 |
| □ 不満 | 0 |



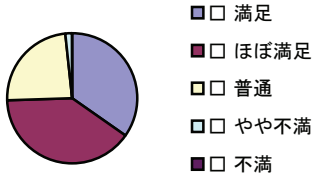
③ 展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足いただけましたか？

| | |
|---|---|
| □ 満足 | 116 |
| □ ほぼ満足 | 143 |
| □ 普通 | 87 |
| □ やや不満 | 12 |
| □ 不満 | 0 |



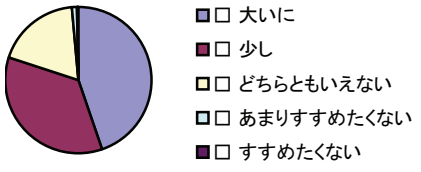

④ 展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

| | |
|---|---|
| □ 満足 | 124 |
| □ ほぼ満足 | 142 |
| □ 普通 | 85 |
| □ やや不満 | 6 |
| □ 不満 | 0 |




⑤ この展示を他の人に伝え、来館をすすめたいと思いますか？

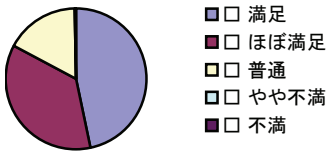
| | |
|---|---|
| □ 大いに | 157 |
| □ 少し | 123 |
| □ どちらともいえない | 65 |
| □ あまりすすめたくない | 4 |
| □ すすめたくない | 1 |




8．館の施設や応対についてお聞かせください。

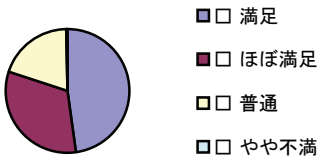
① 施設の雰囲気や美観などにご満足いただけましたか？

| | |
|---|---|
| □ 満足 | 164 |
| □ ほぼ満足 | 127 |
| □ 普通 | 60 |
| □ やや不満 | 1 |
| □ 不満 | 0 |




② スタッフの応対（総合案内、会場内、他のスタッフなど）にご満足いただけましたか？

| | |
|---|---|
| □ 満足 | 169 |
| □ ほぼ満足 | 113 |
| □ 普通 | 70 |
| □ やや不満 | 1 |
| □ 不満 | 0 |




アンケートに回答のあった主なご意見・ご要望

・学芸員の説明が良かった。地域の古代の有り方がよくわかった。考古学の勉強された方があり、よく理解できた。

・学校教育との連携がとてもわかりやすく、興味深く見学させていただきました。

・明るさが適切で良い。

・美濃加茂の歴史を、今後もいろんな角度からご紹介ください。

・出来るだけ考古展示を増やしてほしい。

・出土品は多数あって、よくわかりました。できれば、もう少し図で説明してあると良いと思ったのと、場所ももう少しわかりやすい図が見たかったです。中世なのに、現在と変わらない陶器には感心しました。

・常設展示のPCの体験コーナーは面白くわかり易いのですが、画面のデータ中、漢字にカナがふってあるとより良いのではないかと思いました。

・石版とは・・・初めて知った。遠き明治時代の技術の高さを知った。

・当時の暮らしぶりが、ゆったりと伝わりました。

・貴重な展示物に大変満足している。

・空間がゆったりして豊かな気持ちになれる。

・見下ろす式のケース展示でないと、メガネを掛けても見にくくなりました。

・こんな場所があったなんて、この催しがない限り知りえなかった。

・ホッとできる空間です。

・これは収集（コレクション？）したものの展示であり、そのひとつひとつに意味があるわけでなく、むしろ切り取られた図鑑の存在はいかなるか？感動がない！

・繊細な美しさに目を見張り、見に来て良かったと思いました。

・とってもおもしろい空間でした。色とりどりでキレイ！葉っぱもきのこも蝶々も生きてるみたい。会場の隅々まで、また天井の辺までびっしりの空間、何とも言えません。天井も貼ったとこも見たいです（でも大変ですよね）。

・場所がわかりにくかった。森で作品を見ているとき、41号線の横だと気がついた。

・よくぞここまで資料を集めて、整理されました事を感服いたしました。美濃加茂市の文化に対する考えを深く感銘をしました。

・字が小さくて読みにくい。アンケートを書かせるのなら、机、イスを用意しなくてはあかんよ。

・歴史、文化が良くわかりました。過去から現代の蜂屋柿の様子が上手く表現されていました。伝統を未来へもつなげる提案もあるともっとよかったと思います。

・はじめて全工程がわかり、良かったです。料理、菓子の利用のことが知らせてあるとよいと思いました。

・コンサートの音が気になって、展示に集中できなかった。

・古文書に関する展示コーナーは参考になりました。店内に産物の販売コーナーがあれば申し分ありません。

・資料が沢山ありなかなか見られない。細かいところまで目も悪く見られない。ゆっくり読むと面白いかも・・・。

・写真が多く参考になり良かったが、「右より何人目～和服」とかの解説、説明があると良いなあ。本人何才の頃、場所・・・説明があるとよりよく生きると思われます。

# 施設概要・利用案内

□施設概要

名　　称　みのかも文化の森

所 在 地　美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 番地 1

森の面積　約 9 ヘクタール

建築概要　本体施設　「ミュージアム」と「教育センター」との複合施設

ＲＣ造、一部鉄骨・木造、 地上 3 階、地下 1 階建

常設展示室(451.71 ㎡)、美術工芸展示室(150.08 ㎡)、市民ギャラリー(204.00 ㎡)

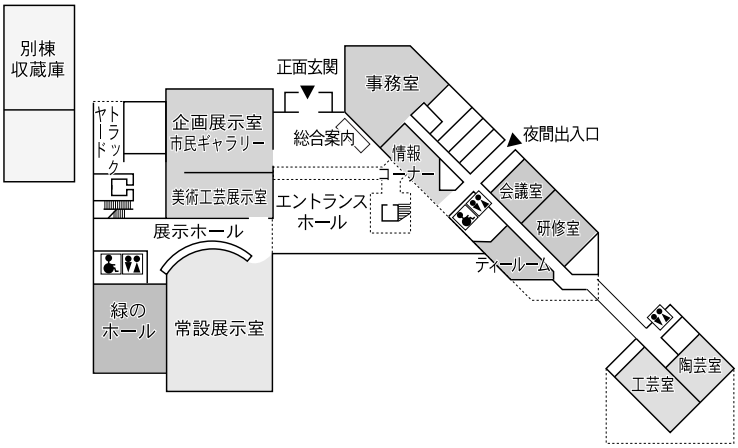
延床面積 5,879.21 ㎡

付帯施設　生活体験館（211 ㎡)、民具展示館（201 ㎡)、アトリエ棟（158 ㎡)

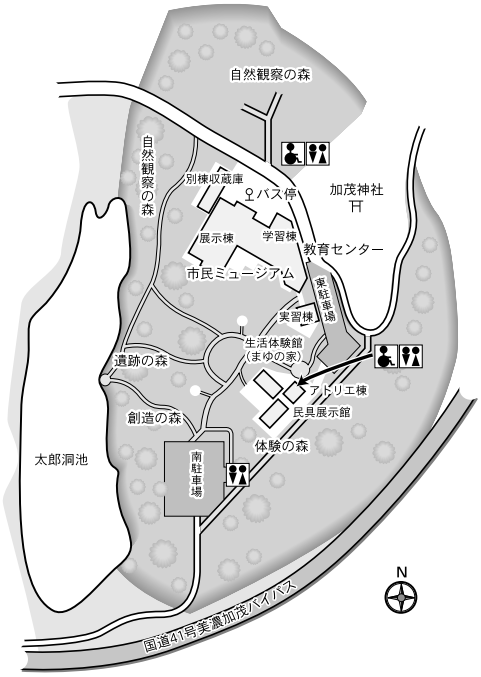
屋外トイレ…2 カ所　　休憩小屋…2 カ所

駐 車 場　174 台（南駐車場 110 台、東駐車場 54 台、北駐車場 10 台）

**本館平面図**




**フィールドマップ**




開館時間　市民ミュージアムの開館時間‥午前 9 時～午後 5 時

休 館 日　月曜日、及び、毎月第 4 火曜日。(ただし、祝日の場合は開館し直後の平日が休館日となります)

年末年始。(12 月 28 日から翌年 1 月 4 日)

交　　通　あい愛バス　JR 美濃太田駅北口から約 8 分

平成記念公園線（月～金＝1 日 2～3 往復）

文化の森公園線（土・日・祝＝1 日 10 往復）

鉄　　道　JR 名古屋駅から美濃太田駅まで特急で約 40 分

美濃太田駅北口から徒歩約 17 分

自 動 車　東海環状自動車道美濃加茂ＩＣから約 5 分

名神高速小牧ＩＣから約 35 分

□施設の使用時間及び使用申請の受付

・使用時間は、午前9時から午後10時までです。（一部施設を除きます）

・使用申請の受付は、使用される3ヶ月前から3日前までにお申し込みください。ただし、市民ギャラリー、エントランスホール、展示ホールについては、使用される6ヶ月前から15日前までにお申し込みください。

・受付時間は、午前9時から午後5時までです。ただし、休館日は受付いたしません。

□施設使用料

(1)　研修室等

| 施設＼使用時間 | 9:00～12:30 | 13:00～17:00 | 17:30～22:00 | 9:00～22:00 | 延長1時間につき |
|---|---|---|---|---|---|
| 研修室 | 2,400円 | 2,800円 | 2,800円 | 8,000円 | 1,200円 |
| 会議室 | 1,200円 | 1,400円 | 1,400円 | 4,000円 | 600円 |
| 実習室1 | 1,900円 | 2,200円 | 2,200円 | 6,300円 | 900円 |
| 実習室2 | 1,200円 | 1,400円 | 1,400円 | 4,000円 | 600円 |
| 緑のホール | 6,000円 | 6,800円 | 6,800円 | 19,600円 | 3,000円 |

(2)　市民ギャラリー等

| 施設 | 使用単位 | 基本使用<br>1日(9:00～17:00) | 基本使用以外<br>(1時間につき) |
|---|---|---|---|
| 市民ギャラリー | 全面使用 | 16,000円 | 2,500円 |
| | 分割使用(1㎡) | 64円 | 10円 |
| エントランスホール | 1㎡ | 64円 | 10円 |
| 展示ホール | 1㎡ | 64円 | 10円 |

(3)　宿泊アトリエ棟等

| 施設 | 使用区分 | 使用料 |
|---|---|---|
| 宿泊アトリエ棟2F | 全日(9:00～翌9:00) | 4,000円 |
| 宿泊アトリエ棟調理室 | 1日(9:00～22:00) | 2,000円 |
| 生活体験館 | 1日(9:00～22:00) | 4,000円 |

＊使用者が使用するに当たり、参加者から入場料を1人につき、1,000円以上徴収する場合は、本表に定める使用料の2倍の額をお支払いいただきます。

＊付属設備、及び、備品の使用料は、別途お支払いいただきます。

# みのかも文化の森の沿革

1983年 3月　美濃加茂市郷土資料館建設基金条例の制定
1986年 8月　美濃加茂市史料調査協力員（10名）を設置
1988年 8月　（仮称）美濃加茂市郷土資料館建設調査委員会（17名）を設置
1989年 3月　第3次総合計画において「文化の森」「郷土資料館」の建設が位置づけられる。
1989年 3月　美濃加茂市美術品等収集基金条例の制定
1989年 8月　（仮）美濃加茂市郷土資料館基本構想の提言
（調査委員会を合計8回開催理念、目的、性格のほか立地場所、名称などについて提言を受ける。以後専門委員会において具体的検討を進める。）
1989年 8月　（仮）文化の森予定地域の植生調査（1次）
1990年 3月　（仮）文化の森整備基本構想を策定（セントラルコンサルタント（株））
1990年 4月　社会教育課に博物館建設係を設置
1990年 5月　（仮）文化の森構想の地元説明会開催
1991年 3月　郷土博物館展示基本計画を策定（専門委員会を合計15回開催。ほか随時専門委員の指導を得る。（株）日展）
1991年 7月　空中写真測量実施
1992年 3月　（仮）文化の森基本計画策定
1992年 4月　中央公民館内に美濃加茂市教育センターを開設
1992年 9月　地権者との間で「土地賃貸借契約」「物件移転補償契約」を締結
1992年10月　（仮）文化の森予定地の埋蔵文化財試掘調査（～11月）
（北部を除き、ほぼ全域で遺物包含層を確認）
1992年10月　（仮）文化の森予定地の樹木調査（樹種と分布状況を調査）
1993年 3月　（仮）文化の森（全体）基本設計
1993年12月　（仮）文化の森予定地域の植生調査（2次）
1994年 3月　（仮）文化の森（全体）実施設計
1994年 4月　埋蔵文化財（尾崎遺跡）発掘調査開始
1994年11月　博物館・教育センターの複合施設計画の立案
1995年 4月　「文化課」が新設され、文化の森準備が充実する。
1995年 6月　（仮）文化の森自然環境影響評価調査（平成6年7月～）
（植生、動物、景観、文化財、水質他）
1995年 8月　第8回彫刻シンポジウムを文化の森内で開催。現地制作を行い、1基を仮設置する。以後、3基設置する。
1996年 3月　博物館・教育センター複合施設（（仮）「文化の森プラザ」）設計の予算化
1996年 4月　博物館部門別展示検討委員会開催、以後7回開催（自然史、考古、歴史民俗、美術工芸）
1996年 6月　文化の森構想教育センター部会開催（以後8回開催）
1996年 7月　（仮）文化の森整備検討委員会（13名）開催（以後3回開催）。（市として「施設の位置づけ」「森の学校」などを提示し、それを受け具体的検討をすすめる。）
1996年11月　（仮）文化の森市民懇話会の開催（以後、市長と語る会を含め4回開催）
1996年12月　（仮）文化の森プラザ地質調査
1997年 3月　（仮）文化の森プラザ建築基本設計
1997年 3月　（仮）文化の森プラザ展示基本設計
（株式会社日展名古屋支店）
1997年 7月　（仮）文化の森ニュース第1号発行（10号まで、平成11年11月）
1997年10月　「市民のための博物館」講座開催（4回、～11月）
1998年 3月　（仮）文化の森プラザ実施設計
1998年 5月　（仮）文化の森ボランティアが発足、会員11名で、主に歴史民俗の資料調査に活動をはじめる。
1998年 6月　（仮）文化の森プラザ新築工事契約
1998年 7月　（仮）文化の森プラザ起工式（7月15日）
1998年 9月　（仮）文化の森プラザ展示工事契約
1998年10月　「ミュージアム自由自在」講座開催（3回、～11月）
1999年 1月　ホームページ上に、「今週の文化の森」として、工事の進捗状況、準備状況を報告、公開
1999年 1月　市職員による「文化の森運営検討ワーキング」開催（2回）
1999年 1月　美濃加茂市自然史研究会が発足。自然調査活動をすすめる。
1999年 3月　（仮）文化の森付帯施設工事実施設計
1999年 3月　リーフレット「文化の森もうすぐうまれます」発行
1999年 3月　『みのかも文化の森活用の手引き』第1集発行
1999年 8月　（仮）文化の森付帯施設工事着工
2000年 3月　設置管理条例（名称を「みのかも文化の森」「美濃加茂市民ミュージアム」「美濃加茂市教育センター」とする。）制定
2000年 3月　工事完了（本体建築、電気、管空調、展示、付帯施設）
2000年 3月　『みのかも文化の森活用の手引き』第2集発行
2000年 5月　文化の森ボランティアを募集
2000年 9月　コンピュータ機器の設置
2000年10月　竣工式およびオープニングイベント。
美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ「芸術と自然－若林奮・大久保英治・山口啓介　美濃加茂自然環境会議2000」を開催。
野外劇「真夏の夜の夢」（シェイクスピア作、坪内逍遙訳）を上演。市民参加の演劇を以後毎年開催。〞
2000年11月　第１回「まゆの家まつり」を、文化の森のボランティアが実行委員会を結成して開催。以降毎年開催。
2001年 2月　美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅳ「親子の対話　岡本一平・岡本太郎展」を開催。
2001年 4月　第１回「春・朗読の一日」が市民による実行委員会により開催される。以降毎年開催。
2001年 5月　第１回森のコンサート「ホルン五重奏」を開催。以降毎年数回、森のコンサートを開催。
2001年 9月　「文字の登場、そして広まり　－古代中世の人と文字をめぐって－　展」を開催。
2001年12月　第１回アートボランティアビデオ上映会「議事堂を梱包する」が開催される。以降ゴールデンアート劇場として毎年開催。
2001年12月　生活体験館東に体験工房（染色）が完成する。
2002年 1月　「暮ラシカル道具展」02を開催。以降毎年開催。
2002年 2月　「川崎小虎展～暖かみあふれる自然の詩情～」を開催。
2002年 3月　『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第1集を発行。以降毎年発行。
2002年 4月　従来まで文化の森所管であった美濃加茂市教育センターが学校教育課所管となる。
2002年 6月　「気持ちの宝物　椎名誠写真展」を開催。
2002年 6月　「蚕とまゆ展」02が開催される。以降毎年開催。
2002年 7月　「発掘された尾崎遺跡　－この地に人が残したもの－展」を開催。
2002年 9月　「「ミノ」「カモ」の古代　－御野国戸籍から1300年－　展」を開催。
2002年 9月　「太田三郎展」を開催。
2002年10月　常設展示室の入場者が10万人を超える。
2002年11月　伝承料理の会により『おばあちゃんちのおかって』（第１集）を発刊。好評につき2003年12月第２集を発刊。
2003年 2月　「色と形と冒険－坂井範一とゆかりの作家展」を開催。
2003年 4月　「土に残る記憶Ⅰ　-旧石器と縄文- 展」を開催。
2003年 7月　「美濃加茂にサイやゾウがいた頃展を開催。
2004年 2月　「津田左右吉 -その人と時代- 展」を開催。
2004年 6月　博物館法に基づく「登録博物館」に認定される。
2004年 7月　「まちの観察日記展」を開催。
2004年10月　「博学連携フォーラム」（市制50周年記念事業）を開催。
2004年11月　「写真で見る美濃加茂市50年」（市制50周年記念事業）が刊行される。
2005年 2月　「情熱の人・坪内逍遙展」（市制50周年記念事業）開催。
2005年 7月　「のこってほしいもの・のこしたいもの　今森光彦 里山物語展」を開催。
2005年 9月　「素材への思い-力と可能性-展」を開催。
2005年10月　サークル等による「フリーマーケット」の開催。以後、毎年開催
2005年12月　「栗田宏一　足もとの土展」を開催。
2006年 2月　「廻国・円空－加茂をとおりて－展」を開催。
2006年 7月　「生きる・くらす　鳥と人展」を開催。
2006年 7月　子どもわくわくプログラム（「文化の森たんけんたい」「ふらっとクラブ」など）を開催。以後、毎年開催。
2006年10月　展示ガイドボランティア企画展示　ちいさな「円空展」を開催。以後、毎年展示ボランティア企画の展示を開催。
2006年12月　「いつもそばにカメラがあった展」を開催。
2007年 2月　「花をみる　鳥を描く　大家峻嶺展」を開催。
2007年 7月　「美・粒子展　酒向絵美＋渡邉太一郎」を開催。
2007年 9月　「小島久弥展」を開催。
2007年12月　「逍遙とシェイクスピア～世界はすべて劇場である～展」を開催。
2008年 2月　「岐阜縣二人展　松本俊介・麻生三郎」を開催。

**みのかも文化の森　年報**　Vol.9　2008 年度

2010 年 3 月 1 日
編集・発行　美濃加茂市教育委員会 教育部 文化振興課
〒505-0004
岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1
電話　0574-28-1110
FAX　0574-28-1104
http://www.forest.minokamo.gifu.jp/
印刷　永田印刷